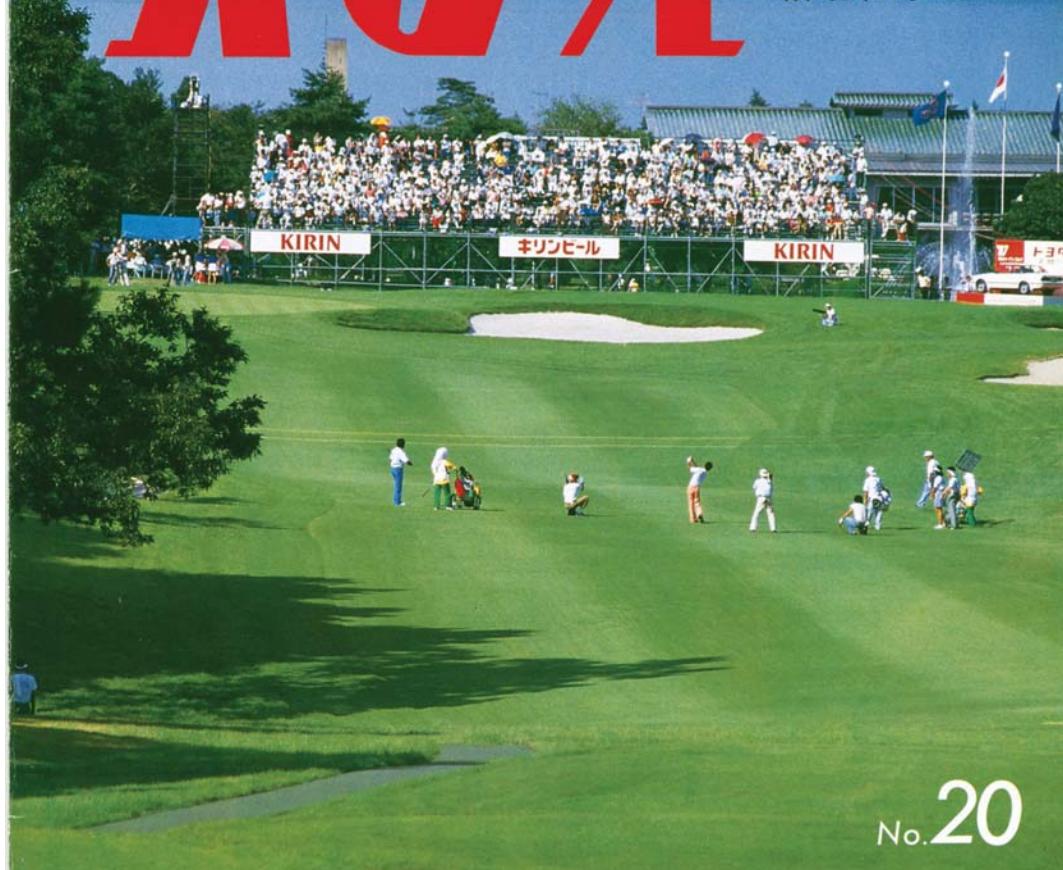


KGA

'87秋季号
昭和62年10月1日発行



No.20

目次

質素を伝統に56年.....	1
相模カンツリー倶楽部理事長 松本 重男	
コラム・芝草物語.....	3
昭和62年度関東オープン選手権競技	4
観戦記 杉山 通敬・宮元 昭雄	
委員長インタビュー(第3回)	11
月例委員長 松野 京三	
昭和62年度関東倶楽部対決決勝競技	14

昭和62年度関東ジュニアゴルフ選手権競技	20
新規加盟倶楽部紹介.....	25
KGA夏季ジュニアゴルフ教室.....	28
ゴルフQ&A	30
理事会・委員会	32
月例競技成績表(昭和62年6月・7月・8月)、お知らせ	36

表紙Photo 総武カントリークラブNo18

 関東ゴルフ連盟

理事長インタビュー

質素を伝統に56年…

相模カンツリー倶楽部理事長

聞き手・KGA広報委員

写真・KGA広報委員

松本 重男

杉山通敬

片山晴美



——人に人格があるように倶楽部にも、それなりの性格があると思うのですが、相模の場合はどういうものでしょうか。

「昭和6年に出来た当初から、小田急電鉄との協力関係というか、つながりがありましてね。当時から相模の会員は“電車族”だったわけです。小田急の中央林間駅から近いこともあって。ゴルファーといえば上流階級の人たちばかりだったんですが、庶民的な倶楽部として発足したわけですね。ま、庶民的と言っても今ほどの大衆的な感じではないんですけど、自動車で来るような人たちではなかった。質素だったんです。これが伝統と言えば伝統じゃないですか、相模の」

——現在でも会員の皆さんは電車族が多い?

「ほんとですね。自動車に乗らなくても行けるところ、そういう人たちでも楽しめるところにゴルフ場を造ろうということでしたからね。ですから小田急の社長は代々、名誉会員になっています」

——会員はどのくらいいらっしゃるんですか

「現在は1550名前後だったと思います。平均年齢は64歳ですが、いちばん多い年齢層は70歳前後でしょうかね。70歳以上から敬老杯の出場資格があるんですねが、700名はいますよ。問題はプレーの速度でして、ハーフ2時間以内で回っていただきたいけど、トシをとれば歩くのも遅くなるし、なかなか、そういうものもない。心掛けとして持っておくしかないんですね。やはり親睦を図りながらプレーするのですから、あまり目くじらたてるのもギスギスしますもの。目に余るようでしたら、それとなく注意するとして、それぞれがルールの第1章を守るように心がければいい。プレーは迅速に。他のプレイヤーに迷惑をかけないように。ええ、エチケットとマナーがルールの第1章ですからね。お互いに知り合って親睦を図

る。それがクラブライフ第一歩ですよ」

——新しい会員は募集してるんですか。

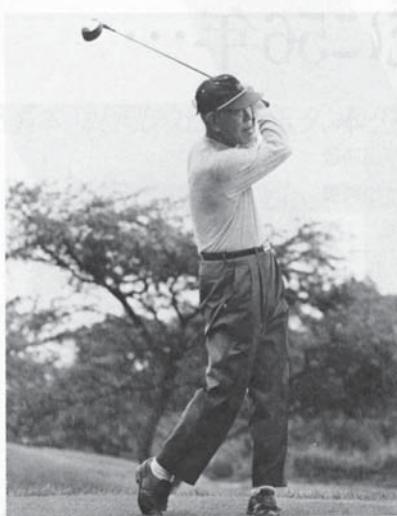
「3年に1度ぐらい、30名ほど補充しています。物故者が出ますからね。2年前に募集したときは1200万円でしたかね。このうちの700万円が入会金で、500万円が保証金、これは退会のときはお返しする。入会の条件は40歳以上、会員2名の推薦など、そんなにうるさくはないんです。100名以上の応募者がいて、厳正にセレクトしていくとも最後にはどうしても60名くらいになる。どなたを入れて、どなたを外すというのが非常にむずかしい。ですから最後にはクジ引きでやったりして——」

——そうやって入会した新しい会員を倶楽部に馴染ますような、相模ならではの方法はなにかあるんですか。

「2名の推薦者が会員の皆さんに、プレーに来た時にね、紹介してまわったり、入会者とわれわれ、倶楽部の役員とコンペティションなんかもやってます。会員になっていただいた以上、誰とでも親しくなつてもらいたいですからね」

——新入会員親睦コンペですか。

「ええ、ゴルフクラブですから、ゴルフをやってお互いに馴染みを持つのがいちばんです。クラブであ



る以上、会員同志の親睦を図るようにつとめたい。それも質素でいい。これが相模が出来た当初からの“持ち味”だと思ってます。

—ビジターとの“和み”はいかがですか。

「年間5万人ほどの来場者があって、メンバーが45%、ビジターが55%ぐらいの比率ですね。1組のうちに1人はメンバーが入ってるわけですから、「19番ホール」でも自然と紹介し合うようになって、和んでいます。これも心掛けですよ。プレー中でも人に迷惑をかけないように心掛ける。そうすればアイツが連れて来たビジターはなんだ、なんて言われないですよ。みんなで心掛けを良くすればクラブライフもメンバー、ビジターの別なく和んでいくんじやないですかね」

—委員会はいくつありますか。

「いくつかな。競技、ハンディキャップ、コース、食堂、ハウス、キャディ、フェローシップ、7つになりますね。それからコース検討委員会というのが別にあります。56年前に赤星六郎さんが設計したわけですが、当時とくらべるととにかく変化してきましたよ。クラブやボールは良くなって來たし、技術も向上して來た。相模はバンカーが多く、100ほどありますが、そのうちのクロスバンカーはだいたい180ヤード付近にある。ちょうど、われわれのように飛

ばなくなった連中がつかまるようになっている。ところが若い連中は苦もなく越しちゃう。開場当時は180ヤードでも、なかなか越せるほどのロングヒッタ一はいなかったので、設計者の意図も生かされていたものが、今では年寄りいじめのバンカーになってる(笑)。木も見違えるほど育ってきた。改造するのは大変やっかいですが、検討材料はたくさんあるわけです。グリーンは昭和35年に、本グリーンをペントにしたんですが、これも最近の新しい“造り”にしたらどうかという問題もありますしね」

—相模のクロスバンカーは砂が少ない、ほとんどベアーグラウンドに近い、と言う人がいますが、なにか理由があつてのことですか、そうしてるのは。

「砂を多くしたら、下手をすると沈んじゃって大きなクラブでは打てないですからね。少なければ、5番ぐらいでも出せる。グリーンサイドのバンカーは多くしてありますけど、クロスバンカーはそんなわけで少ないので。バンカーというのはハザードでね、必ずしも砂がなくてもいいんですね。いくらもあるんじゃないの、砂のないバンカーというのは——」

—古いコースはどこも、改造のことで頭を痛めてるようですね。

「変っていくから仕方ないですよ。昔は180ヤード以上飛ばすの大変だったのに、今じゃ、われわれのような歳になんでも、そのくらいは飛ぶもの」

—理事長のゴルフ歴はどのくらいですか。

「学校を出て、すぐに三井物産の上海支店へ行ってね、昭和6年からゴルフを始めた。江湾と書いてキンワンって読むんだけど、その江湾ゴルフ場で始めた。まだべいべいの社員なのに支店長クラスと回られたから、人のつながりは良くなりましたね。もつとも当時からわたしはサンデーゴルファーでした。ハンディは7までいったけど、今は15でやってます」

—大変、失礼ですが、おトシは?

「84歳ですよ。81歳のときに敬老杯で39、42で回ってエージェントをやりましたよ。狙って出来るもんじやないけど、最後の3ホールは緊張しましたね。200名からの参加者だったのアウト、インのスタートでは表彰式の時間がとれない。そこで4カ所からスタートして、わたしは14番からだったの。だから最終ホールは13番でね、140ヤードのショートホール、

これをパーでいかないと達成できない。バンカーが多いし、乗らなければ、パーは獲れない。6番ウッドで打ってね。うまいこと乗りましたよ。“数え”的エージェントならちょくちょくやってたんだけど、相模は満年齢じゃないと認めてくれないのでね。うん、そりや嬉しかったですよ」

—84歳ですか、とてもそうはお見受けできません。

「わたしはいまだに挑戦的なゴルフを心掛けてるんですよ。毎朝、15分から20分、庭のネットの中でボーラー打つ。一応覚えた打ち方は忘れやしないけど、足腰がいきこまなくなっちゃ、理屈はわかつても打てなくなるからね。散歩がわりのゴルフ

じや運動にはならないし、歩くのだけって、ちゃっちやっと速く歩くようにしてるんです。挑戦してるうちはボケも防ぐことも出来るだろうと思ってね。ドライバーの距離? だからさ、ちょうどクロスバンカーに入るところ、180ヤードから190ですよ。今までサンデーゴルファーだったんで、2日3日にわたる試合には出られなかつたけど、もう相談役(藤倉ズム)になつたし、今年は関東グラウンドシニアに出ようかと思っています。ちょうどコースが相模ですね」

—で、またエージェントにチャレンジですか。
「さあ、どうなりますかね」

コラム・芝草物語③

芝生の種類

KGAグリーン委員長
古賀 始

プレイヤーの皆さんは殆んど我が国ゴルフコースに使用されている芝の種類等はご存じだと思います。しかし、中には関心の薄い方も多かると存じますので、詳細は専門家にゆずるとして、紙面を借りて概略、説明しましょう。

グリーン面に、ペントグラス、またはコーライ芝の改良種(細葉、ヒメコーライ)

フェアウェイに、コーライ、一部野芝、ラフに、野芝、一部コーライ、が使用されている。その他ティフトンが使用されているコースも一部あります。

コーライ 日本古来の芝で、暖地型の芝である。寒冷地の仙台以北、標高千米以上の高地では、生息が難しい。

野芝、日本、韓国に多く、やはり暖地型ではあるが、寒さにはコーライよりも強いので、高地、東北地方でも使用されている。

ペントグラス、寒地型の牧草で、カナダ、アメリカ北部に多く、その種類は非常に多く多年生と一年生とがある。近時ゴルフコースに適した品種の選別、改良、肥培管理の進歩により関東地方でも通年使用万能のペントグラスがつくられている。また北海道に於いてはフェアウェイ、ラフともペントグラスが使われている。

九州、本州、北海道等の地域差、標高差等によりコースの芝もそれぞれ、異っており、それなりに、プレーされるのも趣が違ってくると思われます。

ゴルフコースの芝は、一般栽培植物と違い収穫が目的ではないので、成長すれば刈込み、しかも踏みつけ、また縛圧をし、自然に逆に非常に苛酷な条件のもとに管理されている。

トーナメントのテレビを見てお気付かと思いますが、パッティンググリーンの色が、周辺の芝生の色より黄色く見えることが多い。これはパッティングクォーリティをよくする為に3mmないし3.5mm位にカットし(通常は5mm位)一日中クオーリティ均一にする為に、十日以上前から肥料を切り、水も最少限に押さえるから芝は氣息奄奄の状態である。

グリーンの良否はコースの評価の最たるもので、キーパーの腕の見せどころであり、正に芸術品といえましょう。

皆さん、プレーをしながら芝の種類、出来具合等を観察して下さい。実地に少し関心をお持ちになれば、すぐ種類の見分けは出来ます。

プレー以外にもう一つ興味をもって楽しんでほしいものです。

昭和62年度 第38回 関東オープンゴルフ選手権競技

最後の一打が勝利の一打に

——横島由一選手初優勝——

レポート/KGA広報委員 杉山 通敏
写 真/KGA広報委員 石川 博英
片山 晴美

大会3日目が豪雨のために中止され、決勝ラウンドは18ホールの短期決戦になった。その朝、スタート前の各選手は思い思いの時を食堂で過ごしていた。何人かの選手に、優勝スコアを予想してもらうと、ほとんどがトップの横島由一（4アンダー）が1つでも伸びせば彼のものだろう、と言う。ということは5アンダーがウイニングスコアになる。2位の芹澤信雄（3アンダー）も同様に、5アンダーまでいけば悪くともプレーイングになるだろうと予想していた。ただ、横島だけは6アンダーではないですか、だから今日は70で回りたい、と言う。そして――。

「やってみなければ分りませんが、クラブがよく振れてるのでなんとかいけると思います。こういう難しいコースでは守って守れるものではないので、攻めのゴルフをやります」と、つけ加えた。「予選の36ホールではティ・ショットの半分はラフに入れたでしょうね」とも言う。ラフに入れまいとすれば、思い切りの悪いスイングになるので、「入るのは覚悟のうえで、攻める」と言うのだ。

11時30分、予定どおりのスタート時に横島、芹澤、牧野裕（2アンダー）の最終組がティ・オフする。



▲優勝トロフィーを手にする横島選手

昨日とはうってかわって好天で地元気象台の午後の発表では気温28度、湿度73%、西南西の風1.3mであった。コースでの体感温度は日なたでは30度以上、日陰ではかなり涼しい。風も時折、強くなったり、ぶいと無風になったりしていた。

あかあかと日はれなくも秋の風

芭蕉の句を思い出しながら、彼らの後を追う。横島はフェアウェイのセンターへ見事なティ・ショットを放っていた。本人が言うように、クラブがよく



▲総武カントリークラブのハウス前 関係者は大会前日の夜まで、整備に大忙だった



▲選手がホール・アウトした後も、キャディさんは、目土をもってコース整備へ



▲NHKは今年から話題の衛星放送で予選から生中継 スタッフは100名の大部隊

振れている。セカンド・ショットも、グリーン左に立つピンの右側、ほぼグリーンのセンターへ乗せ、無難なパーでスターティング・ホールを通過する。試合後のインタビューで、今日のポイント（優勝の）は1番をパーであがったことだ、と言っていたが、芹澤と牧野がティ・ショットをラフに入れ、ボギーをしていたので、横島の言葉には実感があった。

「わたしが観戦記を書くとしたら、ラフに何回入れ、そこからどういうショットをしたかを中心にレポートするね」

やはり試合前、矢部昭に観戦のポイントを尋ねるという言う。また、鈴木弘一は、

「フェアウェイからなら7番アイアンで打つところを、ラフだと9番アイアンでとどいちやうんです、ランが出るから。でも、フェースとボールの間にどれだけ芝が『噛む』かでその距離も読めない。どういう球筋で、どのくらい飛ぶか、予測しにくいのでむずかしい」と、思案投げ首の様子だった。ゴルフ観戦のまならない点は、フィールドにいる全ての選手のプレーぶりをフォローできないところなのだが、この試合は最終組から優勝者がいると『勝手読み』をして、彼らを追う（結果的にはその予測が的中した）。矢部のサセッションにしたがって、3選手が何回ラフに入れるか、チェックしながら。

その結果を先に記すと、ティ・ショットでは横島は2回（バンカー4回）、芹澤3回（バンカー0）、牧野12回（バンカー1回）。セカンド・ショットは横島2回、芹澤0（バンカー1回）、牧野5回。サード・ショットは横島と芹澤は0であったが、牧野は3回も入れていた。これを見ても分るように、ショットは芹澤がもっとも安定しており、したがってバーディのチャンスも多かったのだが、肝心のパットが入

らない。12番から15番まで、連続4ホール、ことごとく1パット圈内にレギュレーションどおりのオンをさせながらも、入れたのは12番（3回ほど）のスライスライン）だけだった。ほかにも3、5、6、9、10番でもバーディのチャンスがありながら、3番のショートホールでグリーン奥のカラーから4回ほどを入れたにすぎなかった。16ホール中、9ホールも入れごろ外しごろのパットを外したわけで、彼に限って言えばショットに勝って、パットに負けたと言えよう。17番ボギーのあと、18番ではカップ右10cm以上もあるフックラインを入れてバーディを獲ったが、後の祭りであった。結局、3バーディ、3ボギーで、スタート時点とスコアは変わらずじまいであった。

逆に牧野は、ショットに負けて、パットとアプローチに勝った。1番のボギーだけで、あとは全てパーの73ホールアウトしたのだが、このうちパット数は25だったからショット数は48回の勘定である。48回のなかには18回のティ・ショットが含まれるので、それを差し引いた38回中、実に20回もラフから打っていた。アプローチなどまことに多彩な打ち方でラ



▲飯合選手のバンカー・ショット（18番） 17番でバーディをとり、横島選手と並んだが、このショットが寄らず、ボギーでプレーイングに立ちこむことができず、惜しくも2位



▲最終日のギャラリー受付 朝からお目当の選手の応援に、大勢がかけつけた



▲湯原（左）と中島（右） 期待され決勝ラウンドを追い込んだものの、今ひとつ



▲プロ（尾崎）とアマ（川岸）を代表する、二人の“飛ばし屋”が同じペアリング

イによって、上げたり、転がしたりして寄せ、1パットで切り抜けていたが、所詮はパー・ディが獲える内容ではなかった。

横島はアウト、インとも1パットが1回ずつ（3番、10番）あり、それがパー・ディになった。38ショット、34パットの72だったが、18回のティ・ショットを除く20ショット中、ラフからが4回（うち2回は第3打）、バンカーから4回（全て第2打）であった。パー・レギュレーションを逸したのは5番と17番で、ともに3オンしてボギーにした。5番はティ・ショットを右のヘビーラフに入れ、しかも松か邪魔をしてまともなスウィングが出来ずに、出すだけのセカンド・ショットになったのがボギーの原因である。17番はティ・ショットを右のバンカーに入れ、ライが爪先下りだったこともあり、そのショットをトップさせてグリーン奥のヘビーラフに入れた。アプローチも1ピンほどにしか寄らず、パットも外してボギーにした。

即物的に分析すれば、やはりラフやバンカーから打った場合はパーをセーブするのが上々で、パー・ディは獲れないことを証明した。

「ゴルフは不確実なゲームである」

と言ったのはジャック・ニクラスだが、その不確実性はラフからのショットでは倍加するのだろう。矢部と鈴木の談話がもう一度思い出される。

以下は試合後の優勝者横島由一の談話である。

「18番のティで先行組がつかえていたのでインターバルがあったのだが、その時、グリーン上には飯合君がパットをしていた。わたしは彼が1パットで上ったものと思い、頭の中はパー・ディを獲ることでいっぱいだった。ところが、芹澤君と牧野君は飯合君が1パットを外したことを探っていたらしい。それな



▲横島選手の力強いショット

のに、4アンダーでホールアウトしたよ、18番はパ一であがったよ、と言う。ボクにパー・ディを獲らせるような気持にさせるわけです。積極的な気持でショットしたほうが、いい結果になることを知って。

ティ・ショットはフェアウェイの真中に飛び、セカンド・ショットを打つときに思ったんです。初めは4番アイアンで打つつもりだったけど、ショートして左のバンカーに入れるとパーをセーブする確率が低い。ピンはそのバンカー越えに立っていたし、たとえグリーンオーパーさせても、奥からのアプローチならグリーンが長くなるので寄せやすいと思い、3番アイアンに替えたわけです。気持のうえではグリーンセンターを狙って、フック気味に打とうと思っていたのですが、ピンへ直ぐ飛んでいった。会心の当たりでしたね。これでパー・ディが狙えると思って、グリーンに上ったら飯合君のスコアが“マイナス3”になっていたわけです。それでパットさえミスしなければ勝てるんだ、と自分に言いきせたんです。でも、勝ったと確信が持てたのは最後のパットを入れた時ですね」



▲表彰式 細川理事長「新しいスターが誕生した、さわやかな大会であった……」



▲ベストアマの栄冠を…… 最終日の緊張感あふれる表情のスターティングホールの北川選手



▲11年ぶりの優勝に、美人の奥さんもニッコリ ギャラリーも、心から祝福した

もう一つの関東オープン

—大会を支えた黒子たち—

レポート・写真/KGA広報委員 宮元昭雄

★総武カントリー

メジャートーナメントの開催となると関係者たちの神経の使い方も普通ではない。あまりマスコミの話題にこそならないが、このトーナメントを盛りあげるために一年も前から準備を始めていた裏方さんたちのご苦労ぶりは大変なものであった。

開催コースとなった総武カントリーの面々。何はともあれ、国際級にコースをセット・アップしなくてはならないとあって、その使用コースの仕上げに約半年間は昼夜の作業が続いたという。

これまで日本オープン、ダンロップ・オープンそして日米対抗などピック・トーナメントを15回も開催してきた実績を持つゴルフ場といえども、関東オープンとなればやはり大変な気苦労だったに違いない。

ティ・グラウンドからグリーンの整備はもとより、ギャラリーの移動を考慮したコース内の道路の全面的な補修、なかでもヘビーラフは15cm以上と限定されたせいか、試合前にラウンドに訪れるメンバーたちからの苦情もしきりで、この応待がより大変だったとか。

プロ・アマの一線級が集って関東一を競う関東オープン、さすがラツ腕のプロたちもこのヘビーラフにはほとほと音を上げた様子だった。4日間で20アンダー以上も出るトーナメントもあり、それはそれ



▲大会本部は大忙し

なりにギャラリーを楽しませることができようが、メジャーとなればこうしたインターナショナルなコース設定の中でいかにその秘技を尽くすかというプロの神髄を見ることにゴルフの醍醐味があるのかもしれない。

雨にたたられた大会であったが最終日は快晴下の中で激戦がくりひろげられ、大勢つむかけたギャラリーたちの歓声を聞きながら、「大会がやっと盛りあがって成功でしたね。」と納得していたのが裏方の総大将勝又支配人とコースセッティングを指揮したグリーンキーパーの佐瀬政好さん。総武の皆さん、本当にご苦労さまでした。

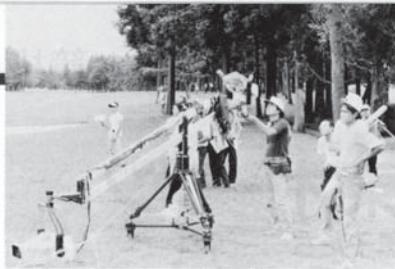
★KGA事務局

裏方さんのご苦労といえばKGA事務局。この暑さの厳しい夏場にコース側との打ち合せから始ってNHKなど、放送関係者らとの協議や参加選手の登録から大会運営の手配に至る一連の準備のために夏休みを返上しての大奮戦だったようだ。それが仕事だからあたりまえといえばそれまでだが、口の悪い委員たちからは、「夏休みがないのはKGA事務局と堀の人たちぐらいだろう。」と同情しきり。

“千貫の鷹も放たねば知れず”ということわざがあるが、いくら金千貫の価値があるという鷹でも使って見なければその力量がわからない、いかに才能のある人でも実際ここに当ってみてはじめてその才能の真価が証明されるという意味だ。JGAの局長以下、ペテランの応援を頼んでいたが、若い局員たちは緊



▲ NHKスイッチングセンター



▲新兵器のミニ・クレーンカメラも登場

張の連続だったにちがいない。こまかい点で、いろいろ問題があったろうが、ともかくここまでやり遂げたことは評価してあげたい。

★NHK

ゴルフのTV番組もシーズン中は毎週末となると必ずといってよいほど、どこかの局で放送しているが、NHKが全国ネットで茶の間に届けてくれるのは、この関東オープン、日本オープン、日本女子オープンの三競技だけである。

今年は新型のミニ・クレーン・カメラまで登場してグリーン面を走るボールの流れをアップで見せてくれるなど新しい趣向に人気が集まっていたようだ。

総勢100名のスタッフが準備を含めて1週間は釘づけになっての大活躍。初日、二日目は衛星中継を、そして決勝ラウンドは総合テレビという二本立の放映だった。ところでどのよう組立て方で映像は実際にわれわれの目に映ってくるのだろうか。記者はその現場にチッピリお邪魔してみた。

コース内に設置されたカメラの台数20台、大型中継車3台。一番高い無線中継のヤグラはなんと24mもあるという。有線カメラのヤグラは約20m級。なかでもメインのスイッチング・センターとなるとその機能も複雑多岐で色調の濃淡から音質に至るまでプレビューモニターカメラが30台以上もズラリと並んでいて、各ホールから集まる映像をチェックしつつスイッチャーの頭脳で整理される。そして現場の最先端といわれる総合しにまとめられ、視聴者に届けられるという仕組みだ。アナースといわれる解説者やアナウンサーのコメントはこの段階でつけられるわけで、オン・エアされると同時に休息もとれないという大変な多忙ぶりに、いやはや放送という仕事は大変なものだと今さらながら思い知らされたものである。

★スコア・ボード

18番グリーン上で最終パットに入ろうとした飯合選手。後続のトップを走る横島選手が17番でボギー

としてタイ・スコアになったことを知らずにいたところ、目の前のスコア・ボードの表示が-4に変わった。これをチラリと見た飯合選手の拳銃にスタンドのギャラリーも大爆笑となりパットを入れてパー一打出来れば、プレー・オフかもしれないと思いつきに仕切り直して打った3mのフック・ラインは無情にもカップの右サイドをストレートに抜けてしまった。

あとは横島の最終結果如何でプレー・オフを待つだけとなり、スタンドの陰にボソリと座り込んで敵さんの出来具合を拝見とばかり頑張っていたが、177ヤードを31でピタリと2.5mにつけた横島の球を見て、「アーラ、余計なものを見なければよかったです」と後悔しきり。気の強い豪打の飯合選手でも一打のプレッシャーには勝てなかったのかも知れないが、それでもスコア・ボードが若し、あの時点で飯合選手の目に入つてなければ、おそらく執念で放り込んでいたかもしれないスタンド雀はとんだスコア・ボードの功罪をいつまでも話題にしていた。

★ベテラン・総崩れ

ジャンボ軍団は飯合を除いて三兄弟が総崩れ、長兄将司選手はアメリカ帰りの疲れもあったのか、結局予選落ちこそまぬがれたものの、いいところなし。次兄の健夫選手も前回KBCオーガスタの猛烈なチャージの面影はなく、末弟直道と共に中位に終った。

スウィング改造でそろそろ狙ってくるだろうとギャラリーの期待を一身に集めていた中島選手も2日目猛チャージを見せて上位に顔をのぞかせたまではよかつたが、最終日スタートの1番で早々につまずき、結局いまいち迫力に欠けた内容に終ってしまった。

「インターナショナルのレベルで見れば、この程度のラフなんかどうということはないよ。」と世界を股にかける中島だったが、照り返しの強い決勝日は「蒸暑さにやられた。」とばかり、グリーンにあがるたびにタオルで顔の汗を拭いていたが試合が終るや早々に夕方の飛行機でアメリカ遠征に飛び発つて行った。

久々に湯原信光選手の活躍がギャラリーを沸かせたが、総じてアマもプロもベテランが崩れ若手が台頭してきた大会であったような印象が強く残った関東オープンであった。

昭和62年度 関東オープンゴルフ選手権競技成績表

参加者 157名 9月3日(木)～9月6日(日) 於：総武カントリークラブ
7153ヤード、パー72
(総武コース)

順位	氏名	所属	第1ラウンド		第2ラウンド		第3ラウンド		合計
			アウト	イン	アウト	イン	アウト	イン	
優勝	横島 由一	ユン	33	35	68	35	37	72	212
2	長谷川 胜	橋興業	36	38	74	35	35	70	213
2	飯合 肇	東士平	36	35	71	37	35	72	213
2	芹澤 善典	原陵	35	36	71	35	35	70	213
5	水巻 広	田精麦	36	37	73	35	39	74	214
5	丸山 智弘	紫秋	36	34	70	38	37	75	214
5	草壁 政	本産トノ	36	38	74	33	36	69	214
8	天野 伸	田山業	40	35	75	35	36	71	215
8	須貝 利	風昇司裕	36	34	70	37	36	73	215
8	渡野 伸	デサン	39	34	73	33	36	69	215
12	中島 常信	京興産	38	37	75	35	35	70	216
12	湯原 野	東富士観光	37	36	73	33	39	72	216
12	河野 伸	和重道治	35	35	70	37	36	73	216
16	尾海 老原	第一不動産	36	37	73	36	39	75	217
16	船渡川 浩	直清治宏	38	36	74	37	35	72	217
16	金井 清	青一郎	35	36	71	39	34	73	217
16	謝木 駿	鳳凰	36	38	74	35	35	70	217
22	藤木 三	野原	38	35	73	33	37	70	217
22	村井 進	同酒	39	38	77	36	35	71	218
22	佐野 修	足立グリーン	38	36	74	40	34	74	218
22	佐野 修	東松山	35	34	69	41	36	77	218
26	久保田 太	東富士	34	37	71	37	37	74	218
26	稲垣 太博	正孝成見	38	37	75	39	37	76	218
26	相原 順	ナショナル	41	37	78	35	35	70	218
26	相原 順	青バーゴルフ	40	33	73	40	35	75	219
26	平林 邦	みうら	40	35	75	34	39	43	219
26	矢部 勇	リヤ	39	37	76	34	36	70	219
32	加瀬 秀	太郎昭樹	36	37	73	35	38	73	219
32	新井 駿	規矩雄	35	38	73	40	38	78	220
32	嘉松 伸	アーデラン	38	39	77	36	38	74	220
32	浜野 治	望光	37	37	74	39	36	75	220
32	尾崎 健	光夫	34	36	70	38	38	76	220
36	森 崎	正泰	36	37	73	41	37	78	221
36	上原 岸	泰良	41	37	78	35	38	73	221
36	川井 岸	義典	38	38	76	35	40	75	221
36	小川 山	兼高	36	38	74	36	40	76	221
36	米津 田	剛哉	37	41	78	35	37	72	222
36	横堀 野	寿裕	38	35	73	37	38	75	222
36	南北 町	皆川	37	37	74	36	37	73	222
46	石井 秀	秀治	36	41	77	36	38	74	223
46	山本 保	ヤマ商	37	37	74	38	39	77	223
46	尾崎 将	代物	36	35	71	39	41	80	223
46	新間 善	東興業	39	39	78	38	35	73	223
46	白浜 邦	ピタカイン	36	39	75	38	37	75	223
46	安田 春	根箱	35	38	73	36	39	75	223
46	栗井 孝	大徳興業	36	36	72	38	38	76	223
54	板井 栄	南光台ガーデン	38	40	78	33	40	73	224
54	*成田 正亨	浜松豊岡国際	38	41	79	33	37	70	224
54	*鈴木 亨	日本大	35	37	72	38	38	76	224
54	*和田 雅英	東京五日市	35	38	73	36	39	75	224

※ベストアマ 北川裕規選手(川岸良兼選手とのプレー・オフ)

氏 名	所 属	第1ラウンド			第2ラウンド			合計
		ワクト イン	計	アクト イン	計			
村上 隆	殖産住宅	39	39	78	39	35	74	152
東 聰	成田スプリングス	38	39	77	37	38	75	152
陳 清波	河口湖	40	36	76	36	40	76	152
岩下 吉久	藤沢ジャパン	37	43	80	37	35	72	152
羽川 豊	セトラルスポーツ	39	38	77	36	39	75	152
※丸山 晃樹	土浦	38	38	76	38	38	76	152
安達 夫典	華嚴	42	36	78	37	37	74	152
竹内 茂	成田国際	39	35	74	39	39	78	152
※加藤勝 一彦	千葉	38	42	80	37	36	73	153
※川原 ビート	ヨネックス	39	38	77	37	39	76	153
木下 幸一	慶応大	38	39	77	39	37	76	153
古木 讓二	フリーライ	37	43	80	35	38	73	153
※奥延 荏	茨城	41	38	79	39	35	74	153
※竹林 道守	浅見	41	36	77	39	38	77	154
渡辺 由己	我孫子	38	38	76	38	40	78	154
金子 口憲	千葉スプリングス	35	40	75	41	38	79	154
※南條 勝美	利根バーグ	41	39	80	37	37	74	154
※宮辰 夫辰	習志野	41	36	77	37	40	77	154
※鹿座 一郎	セントラル	39	38	77	37	40	77	154
※伊沢 利光	柳井倉舍	40	37	77	39	38	77	154
岩井 隆	大然海国際	37	39	76	38	40	78	154
※佐久間健一	桜	36	39	75	42	37	79	154
近藤 真板	八戸房	39	37	76	40	38	78	154
※板潔	中津川	38	40	78	37	39	76	154
青木 基正	マルマンゴルフ	37	39	76	41	37	78	154
※内藤 定幸	桜ヶ丘	39	39	78	38	39	77	155
古川 直樹	那須野ヶ原CC	37	38	75	40	40	80	155
※飯塚信太郎	日本大	44	37	81	36	38	74	155
森 雅	川崎国際	40	37	77	37	41	78	155
柳沢 冲司	フリーライ	40	39	79	37	39	76	155
並木 俊明	佛果	39	40	79	38	38	76	155
高橋 五月	木場	38	39	77	41	38	79	156
小川 清二	橋東千	40	38	78	39	39	78	156
佐藤剛平	芳賀	39	39	78	40	38	78	156
※杉田 強努	GMG大王	43	40	83	38	35	73	156
渡名喜 均	ニユートンツール	41	37	78	39	39	78	156
※阪田 哲男	袖ヶ浦	41	37	78	39	39	78	156
稗田 美佐男	向原センター	40	39	79	40	37	77	156
須藤聰	競輪ジャボリー	39	38	77	40	39	79	156
※中島 広行	伊豆豆	41	41	82	38	37	75	157
横井ジョウジ	大袋グリーン	39	38	77	39	41	80	157
室田 淳	スカルティングシャンパン	41	38	79	39	39	78	157
※大竹 根	大袋グリーン	43	37	80	40	37	77	157
西脇 幸治	川崎国際	39	37	76	44	37	81	157
小泉 清一	ロイヤル	40	41	81	38	38	76	157
川村 正己	衣笠城	39	40	79	40	38	78	157
※石井 孝一	上総富士	39	35	74	42	41	83	157
江本 光	東海物産㈱	37	43	80	40	37	77	157
※太田 再勇	大相模	37	40	77	43	37	80	157
※石井 直人	富士平原	40	40	80	40	38	78	158
謝 永郁	柏	39	40	79	39	40	79	158
三浦 勝利	千葉・野田	41	39	80	39	39	78	158
※依田 祐輔	日本大	42	42	84	38	36	74	158
※和田 博	東京五日市	40	36	76	40	42	82	158
石田 哲也	フリーライ	41	40	81	39	38	77	158
※藤田 雅也	岡部チサン	42	38	80	40	39	79	159
※杉山 直也	東名厚木	43	39	82	37	40	77	159
※原 蕉庭	平野浩作	40	42	82	38	40	78	160
※久保 雅照	久保田修	39	40	79	38	43	81	160
※加部 昭男	東名	43	40	83	38	40	78	161
友光 良一	ジェイジーピー	43	40	83	40	38	78	161
※松井 澄	鶴舞	41	39	80	38	43	81	161
小島 鶴	武	41	42	83	41	37	78	161
※室伏 健二	東名	42	38	80	40	41	81	161
※田代 昌義	新千葉	41	42	83	38	40	78	161
※鳴田 審人	梅	42	40	82	40	40	80	162
河野 高明	カリムピックスタッフ	46	39	85	40	37	77	162
※小川 透	綾子	40	41	81	42	39	81	162
※川部チサン	川部チサン	41	43	84	40	39	79	163
※横山日出男	大相模	38	40	78	45	40	85	163
角田 周治	三島ゴルフコース	41	43	84	40	39	79	163
高橋 太済	鶴	44	42	86	38	40	78	164
※根本 仁	戸	42	40	82	42	40	82	164
水 戸	皆川城	41	43	84	39	41	80	164
※鶴谷 修	東名厚木	42	43	85	41	39	80	165
東大山 謙	ケガ谷	42	42	84	44	38	82	166
吉田 誠	四郎	43	42	85	40	43	83	168
※青木 忠雄	富士・笠間	43	37	80	47	41	88	168
※杉山文男	鶴巣ジヤンボリー	45	42	87	43	41	84	171
下千里	フリーライ	39	39	78	44	37	81	171
※白井 正信	新千葉	43	40	83	43	37	81	171
※高安 信行	セントラル	43	42	85	44	38	82	171

(※はアマチュア)

委員長インタビュー

第3回

月例委員長 松野 京三

聞き手・KGA広報委員 宮元 昭雄

新しいゴルフ・ライフの実現を目指すわが国ゴルフ界、たしかに米国に次いでゴルフ王国といわれる日本だが、その潜在人口はざっと2000万人以上に増大したとも言われている。

技術水準は高く評価されてはいるがゴルファー自体のルール無知、マナーやエチケットの欠如が指摘されているのも事実である。

ゴルフを通じて国際交流が進む今日、ゴルフ大衆化時代の中でそれらの指導教育の必要性とその急務が叫ばれるのも当然であろう。

月例競技委員会は、より秀れたゴルファーを育て将来その指導者たりうる人間を育成するために毎月研修競技会を開催し、その運営管理に当たっているが、その現実と将来の対応について松野委員長に聞いてみた。



——月例競技の実施規定が今年度より一層厳しくなったようですが、その狙いは?

ご承知の通り本競技の目的は、ひとつには模範的なアマチュア・ゴルファーを育成するという狙いがあります。参加する者は成績を競うというだけでなく、競技を通じてエチケットやマナーそしてルールを研修し技術の研鑽とあわせて、将来わが国ゴルフ界にあって、より良き指導者になりうるよう期待するもので、ひと言でいえばゴルファー教育の場ということです。

だからただ単に競技に参加するということだけでなく、他競技にないいろいろなルールをも設けております。ですから個々の人格とゴルファーとしての自覚を育てあげるために細部に亘ってきびしい規則を設けたわけです。

——競技それ自体とは別にルール等についてはミーティングを……

当日の競技会後には必ずミーティングを行っています。ミーティングを欠席した者は翌月の競技会には出場停止の処分をするという罰則もあり、きわめて厳しい制約の中で選手たちは自らが研鑽しうるチャンスを与えているわけです。特にルールについてはゴルファーとして熟知するよう具体例を挙げて教育指導を徹底しています。

——現在KGAの加盟倶楽部が366コース。かりに1コース当たり2000名の会員がいたとしてもその数はおよそ73万人はいるということです。

この中から男子はJGAのハンディキャップ3まで、女子は13までの者が月例競技に参加できる有資格者ということですが、実際にはどの程度連盟に登

録されているのでしょうか。

最近事務局でそのデータをまとめて貰ったところですが、男子が約500名、女子が約200名でしょうか。このうち毎月の競技会に参加する員数は男女合わせて約150名というところです。

—新設のゴルフ場が増えたことによって有資格者の数も年々増加の一途を辿る傾向にあると思われますが、より厳しい運営が望まれるところですね。

委員会の役目という点でその歴史的背景と今後の展開について一言。

月例競技の生いたちはJGA主催のアマ東西対抗競技の東軍の代表選手を養成することを目的として、当時ターフ・ライダーという名称で自主運営の会が開催されていたものです。

その後昭和44年にJGAの改組に伴いKGAの中に「月例競技専門委員会」を創設し、引き続き関東在住のトップ・プレイヤーの教育を目的にこの年の10月より月例競技を連盟の公式競技として発足させ今日に至っているわけで、競技は連盟の日程にも正式に組み入れ、一部の選手だけの競技ではなく毎月新しく資格を得た若い選手が参加して、ゴルフの基本であるエチケット・マナーそしてルールという研修を重ねているわけです。

—たしかにターフ・ライダーは厳しい研修をやっていました。私も当時メンバーでしたので当時のことをよく覚えています。“ターフライダーのメンバーであるという誇りを持ち、自ら良きゴルファーたらんとする自律精神を持て”と先輩から厳しく教わったことがいまは懐かしく思いますね。

ところで当時は40名そこそこの参加者、當時に比



べ今は150名という参加者だそうで委員会もその運営については大変ご苦労も多いことでしょうね。

先達の先輩各位がこうして日本のアマチュアの育成ということを真剣に考えて下さった、その歴史的遺産を現在KGAが受け継いでやっているわけで、大変重要な意義があるものと考えて、しっかりやっております。

したがってこの灯だけはどんなことがあっても消してはならないと思うし、委員会としても研修の意義をもっと選手に徹底理解させて本来の目的達成のために私自身も粉骨努力し続けたいと決意しております。

—環境に恵まれている現在、若い人たちはその点では大変幸せですね。

関東の名門コースでプレーが出来る。しかもその参加料は5000円ということになればトップ・プレイヤー達にとって大変なチャンスというわけですから。しかし現実問題として昨今のゴルフ環境から見て5000円の参加費すべてを補えるとは思えませんが……。

たしかにおっしゃる通りです。長い間5000円でやって来ましたが、今年から若干値上げさせて貰って7000円程度にと思いました。しかし参加者の中には高校生や学生も多く、若い人たちを含めての教育ということを考えれば出来るだけ値上げはしないのがのぞましいとは思います。今回も選手たちの声はなんとか現行のまままでやって欲しいという要望が強く、今年はとりあえず現行のままということになりましたが、考えてみれば20年も現行料金でやって來るわけで周囲の状況なども考慮せねばなりませんから、来年は若干値上げされることになっても仕方ないことにとどく私自身はそう考えております。

この問題は連盟の理事会で新しい結論が出ることでしょうが、委員会としてはその時点まで現状維持ということです。

いづれにしてもアマの競技についてはその開催する使用コース側の大変なご厚意でこれまで助かっているということが現実ですね。

—関東アマのシード権が月例ポイントの40位までとなっていますが、40位は多いのではないかという声もありますが。

成績によるシード制に関しては検討の余地は充分

あると思います。アマ予選に出来るだけ多く参加させて予選通過を多くするというのが正当かも知れませんね。

シード制の枠を縮めることは結構なことですが、やはり一生懸命やっている選手の顔を見ていると一人でも多くのシードの枠内に入れてやりたいという気持ちになります……。

—よくわかります、その気持ち。親心というやつですね。問題は個々の選手が月例競技の目的とその意義をしっかりと認識して競技に参加しているのかどうか、ということですね。

とくにトップ・プレイヤーたる者はルールもしっかり研修し明確に熟知するよう努力して貰いたいし個々の資質を云々されないように自覚を持って貰わなければ月例競技の持つ意味がない。

シードの枠決めは競技委員会で決めることですか。新しいシード権の枠が決まればそれに従うということになります。

月例委員会としては出来るだけ自主運営できるよう内容的に検討していくと思っていますが……。

—自主運営といっても、それはむずかしい問題ですね。教育というポリシーを考えれば委員会自身でそう簡単に管理運営が出来るのは思えませんが……。

たしかに競技の本質を考えればアレコレとむずかしい問題が多過ぎることは確かです。

教育という観点からすれば連盟は重責を負っているといえましょうね。

一部には特定の選ばれた者だけの競技ではないかという見方があるようですが、私はあくまで月例競技は教育の一貫として受け止めた考え方でやっています。

—教育であればそれは無限のものです。

たしかにその通りです。現に新規の参加選手の数も60年度は135名、61年度は75名と年々新しい選手が月例に参加してきています。

そしてこれらの平均参加回数は約3.8という数値を示しているわけで、KGA加盟下のゴルフ場に所属するゴルファーの中には月例競技における研修を期待する数も増加していることがハッキリしてきています。

月例競技を通じて有望選手の発掘はもとよりその

育成にKGAは充分貢献しているということをご理解下さい。

—連盟の月例競技に対するポリシーが明文化され、同時に委員会が積極的に活動されていることは、華やかなオープン競技に比べて極めて地味な存在ですが、将来のゴルフ界を考えればそれなりに重要なことだということが良くわかります。

ところでこのような月例競技をやろうという気運が高まり全国各地連盟にもそうした動きが出て来ているや聞いていますか……。

現に関西地区連盟はKGAの運営の実体を研究に来られた事がございます。

底辺が広がってきている今日のゴルフ界を見て、少なくとも将来、そのゴルフ界でリーダーシップのとれる、またその指導者としての人材を育てあげることが連盟としていかに大きな責務であるかという認識に立つと、現在私どもがお手伝いしている委員会の役割の重要さを改めて再認識しているところです。

ジュニア問題もそうですが、全国的に若い世代の人たちのゴルフ熱は一段と加熱てきておりJGAでも育成委員会という特別委員会を設けて将来にかけてジュニアの教育に力を入れることになりました。

これと同様に月例競技それ自体将来に託した先輩としてのわれわれの責任においてなんとかしなくてはならない問題だと思います。

—ゴルフを理解する人たちの間には、こうしたジュニアを含めた若い世代の人たちの教育ということに対して大変な关心が広まっているように思えます。

月例競技委員会もボランティアとしての活動に限りはありますしが、どうぞ今後も積極的にご活躍下さい。

時によっては大変手薄で運営面で当惑することもありますが、ジュニアの大会でもそうですが、ゴルフの隆盛というそのテンポにあわせて参加者も年次増加してくる時代ですから運営面をひとつとっても根本的に検討し直すべき時かも知れません。

とにかく委員会に与えられた使命を充分理解しながら今後も期待に応えられるよう努力してまいります。

—今日はどうもありがとうございました。

昭和62年度 関東倶楽部対抗決勝競技

●開催期日 昭和62年6月30日(火)

●開催コース 取手ゴルフ倶楽部

●使用コース Aクラス 東コース 6,678ヤード パー72

Bクラス 西コース 6,894ヤード パー72

観戦記/KGA広報委員 宮元昭雄

写 真/KGA広報委員 片山晴美

千葉カントリークラブに凱歌

史上最高33チームによる大接戦

倶楽部対抗と雨。いつもならこの季節は梅雨前線のいたずらで集中豪雨に見舞われ、競技も一時中断するというアクシデントがつきものなのだが、今年はカラ梅雨のせいか快晴無風いわば好天に恵まれた絶好のゴルフ日和であった。そのため関係者たちも早朝から会場に乗り込み応援合戦に繰り広げるなど例年になく盛り上がった大会となった。

予選参加チームが実に219チーム、史上初めてというこの数字が示すように年々倶楽部対抗にかける各倶楽部の意欲も旺盛になる一方だ。県別予選会で選ばれた32チームに加えて、決勝開催コースの取手チームを含めた33チームが62年度関東倶楽部対抗競技の王座を目指す。選手数はA、Bクラスあわせて264名、えらび抜かれた精鋭が18ストローク・プレーで熱戦を展開した。

A、B各クラスから上位3名、計6名のストロークの合計でこの大会を争うという競技も、近年は50歳以上のAクラスの選手の調子いかんでそのチームの成績が大きく左右するとあって、どのチームも最後まで自軍の位置づけが読めないほど接近している。とくにどのチームも戦力が均衡しているだけに最後のワン・ストロークで上位が大きく変わってくるのでチームのキャプテンは選手の調子を見極めながら新しい指令を出したり、他チームとのストロークの差を熱心に追わなければならない。そしてチーム・プレーの妙を見せる苦労も倶楽部対抗独特の雰囲気だが、その熱気は異様なほどだ。

年に一度のゴルフの祭典、倶楽部の名誉をかける選手の意識もこの大会だけはとりわけ熱がこもる。



▲スコア・ボード見守る関係者

理事長を先頭に各チームの役員や倶楽部の従業員、そして選手の家族など総勢で応援するこの大会の雰囲気は倶楽部対抗ならではの華やかさ、それは今も昔と変わらない。

激戦区といわれる千葉、栃木、静岡、埼玉など今年も決勝に進出してきたチームの顔ぶれは強豪揃いだ。それでもダークホースといわれていた埼玉の岡部チサン、昨年決勝で惜しくも袖ヶ浦に敗れて2位と涙をのんだ姉ヶ崎チーム、そして静岡の富士カントリーなどが予選で姿を消したのは寂しい。新たに新銃強豪チームの参加もあって今大会の優勝の行方は全く混沌としていた。

なかでも注目されているのは昨年の覇者千葉の袖ヶ浦チームが、今年はエースの阪田哲男選手を欠いての決勝進出である。阪田はスウェーデンで開かれる国際アマゴルフの選手権に日本代表チームのキャプテンとして遠征中、「飛車抜き」で今年は苦戦をまぬがれないが全員でなんとか頑張って2年連続を狙う。と野本キャプテンの悲愴な意気込み。一方昨年はポイント・ゲッターの加藤一彦選手を欠いて優勝戦線から脱落した千葉カントリーだが、今年は同選手が関東アマ第2位の成績を手土産に戦列に復帰し優勝を狙っている。

千葉カントリーが本大会優勝候補ナンバーワンの呼び声が高いのも全体的にまとまっている中で、特に加藤一人で平均6~7ストロークは稼げるという計算ができる強味があることだ。59年、60年に次いで今年度の優勝を虎視眈々と狙っての戦力配備だ。このほかダークホースといわれるところでは、このところ神奈川大会で2年連続優勝して駒を進めて来た東名厚木だろう。また常に上位をキープしている常連のセントラル、今年こそ初制覇に燃える横浜カントリー、予選成績が目立つてよかつた茨城県チームのアジア下館や大利根チーム、そして久振りの出場で注目される古豪我孫子チームや、強力なトップアマを揃え一発を狙う青梅ゴルフ。これら強豪チームが少差でせりあってくることは必至で、その激戦が予想される本大会であった。

美しく整備されたコースコンディション。3.5ミリのダブル・カットされた高麗グリーンの調子は「それほど早い」という感じではない。(加藤一彦選手談)というもの、雨不足という大会前の状況から考えればグリーンは文句のつけようのない立派な仕上がり具合だが、『早くして当然』という考えが選手の頭の中にはこびりついている筈だ。A、Bそれぞれのクラスが東西の両コースに分かれ勇躍スタートしていく。

オープン以来20年以上も経ったコースの樹木は大きく成長し、筑波野の広々としたフラットな中にも大胆なコースレイアウトが巧みに取り入れられ、戦略的にはグリーン上の争いもさることながら、ティーショットの落すポイントが問題となる。一打次第では2打の運不運がスコアメイクに大きく影響してくれるというアンジュレーションがうまく生かされており、トップアマたちの日頃の鍛錬の成果を競う



▲特製の弁当を持ち込んでの応援



▲優勝の千葉カントリーチーム

には格好の舞台ともいえるこの日の大会会場でもあった。

グリーンが早いということを意識しすぎて、打ち切れずにショートする選手が目立つて多かった。『より楽しくおもしろい大会』という倶楽部対抗競技のテーマが、昨今ではギャラリーの目もその選手の内容とか質を求めて観戦するようになった。これは10年ひと昔前の倶楽部対抗の雰囲気とは大きく異なる点かも知れない。選手層の顔ぶれを見るとこの競技の年輪を感じさせるに充分な人、人の賑いである。

社会人としてトップアマを交えたチーム同士の対決とはいって、緊張の中にもそこはアマチュア同士の和やかな交換風景も見られ、倶楽部対抗ならではの光景が随所に見受けられた。

試合の展開はスムーズに進んでいった。午後に入って早いスタートの選手たちが次々とあがってくる。チーム毎に選手を迎える輪の中で、……れば、……たら、の話題に花が咲いている。3パットを悔む者、考えられないミスだといつまでも残念がっている者、好スコアに肩をたたき合って喜ぶ者もいる。僚友のスコアを気にしながら自軍の集計を目で追う関係者たちの一喜一憂が大きな人の渦の中で激しく交叉しているのも、この大会の持つおもしろさかも知れない。

好天に恵まれたためか競技もスムーズに進行し、予定通りの時間で各チームの選手が続々とプレーを終了してあがってくる。

各チーム最終選手を残したところで千葉カントリー、富士宮、東名厚木、横浜、袖ヶ浦、青梅、セン



▲自軍のスコアを集計する関係者は一喜一憂

トラン、大利根、飯能、宇都宮と少差でせり合っている。全く予断を許さない状況だ。なかでも東名厚木が急上昇して千葉カントリーを急追している。東名厚木の原選手の出来いかんではトップかも知れないというニュースが走る。

「加藤はアウト36で折り返し、インも現在ワン・アンダーだ」と情報が流れ。『強いね。やはり千葉カントリーだよ。』と誰かが声を荒げる。

アジア下館、大利根、青梅が急追してきた。大利根は小原選手のサポートにかけているようだ。横浜も手堅い。横浜の老雄山口選手が、「うちも猪股がいいから……」と上位進出のチャンスを期待しているようだ。平均ストローク77点台のキープは確実とあって、上位進出の可能性ありと騒々しい。

目前の敵を追えないこの倶楽部対抗の競技方法、敵は唯一自分自身であり自分との闘い以外にない孤独な競技だ。いかに崩れないようにワン・ストロークを大切に守るか大きくチームへの貢献度となるわけで、それだけに各選手の息づまる戦いを見守る応援団にも力が入ってくる。

千葉カントリーは加藤が71のベストスコアで試合を終了した。この時点で千葉の断トツかほは決まった感じだ。東名厚木、大利根、アジア下館、横浜など4チームの激しい2位争いにしばられてきた。

アジアの藤本、木村の両選手が追い込んでくる。2位争いが微妙なところだけに応援団の声援にも熱が入る。

予選ではメダリストを3名出した東名厚木、選手層の厚みがここに来て大きく物をいう結果になるか、と期待されたが、しかし期待の原戦選手は重圧に屈した型で千葉カントリーを追い抜くところまでは無

理だったようだ。しかし藤本、田辺、大石と予選での活躍をそのまま決勝戦に持ち込んだ奮闘は大きい。横浜も着実に伸びた。Bクラスの陳、森山両選手の活躍で大きくポイント稼いだことは間違いない。

アジアの木村、藤本、大利根の小原、竹内の結果いかんでは横浜のベスト3入りも期待されたが、最終組アジアの木村選手が76でフィニッシュしてすべての競技は終了した。

スコアボード前に群がる選手や関係者たちの目は他チームとのスコア差の計算に余念がない。拍手が沸く。「やったぞ」東名厚木と大利根が同点。大会規定の4番目のスコアー上位で東名厚木が2位となったところで再び大きな歓声があがる。大利根第3位の健闘、アジア下館と横浜が同点ながら4~5位と分けた。

期待された我孫子、武藏、青梅はいまひとつ伸び切れなかった。

優勝候補のひとつにあげられていた袖ヶ浦も涙をのんだ。そしてダークホース、東名カントリーも15位と中位に甘んじた。「うちはいつも前評判がよくて……」と山田八郎氏(東名競技委員長)が言っていたが、試合の終盤まではまんざらでもなかった表情だっただけにひょっとしたら……とひそかに夢を描いていたに違いない。

叶えられない夢ではない倶楽部対抗の優勝という快挙。どのチームも戦力を整えて気力を充実させての参戦。しかし幸運の女神は33分の1、つまりたったひとつのチームにしか微笑まないのだ。運がなければ……とはいものの、やはり日頃の練習の中にチームプレーとしての「やる気」を育てたチーム、その実力に幸運が舞い込んできてこそ優勝という感激を味合うことができるのであろう。時は得難く失い易し、ということわざがあるが、倶楽部対抗に出場した各チームがその果てしない夢をまた来年につなぐ楽しみ、倶楽部対抗はその意味でゴルフを愛する社会人ゴルファーたちの有意義な祭典でもあるかも知れない。

Aクラスのメダリストになった飯能の田辺嘉一と浜松豊岡国際の今田幸雄の両選手の健闘は見事だった。「ゴルフのスコアーは年齢に関係はないだろう? 今日ほど楽しいゴルフが出来たのは久しぶりだよ」と、

並いる球友にひやかされていた飯能の田辺氏、「来年はうちがいただくか」と快気炎。トップアマの意地を見せてくれた一日だったといえよう。

選手の渦は千葉カントリーの一団を中心に大きな輪が広げていた。4年間で3回優勝。昨年こそ袖ヶ浦が敗れたものの、59、60そして62年と制した記録は倶楽部対抗の歴史として後世に語りつがれることであろう。

「おめでとう」「いや、全く強いね」各チームの人たちから祝福をうける千葉カントリーの総監督、木内利光氏(同クラブ理事、グリーン委員長)の笑顔は絶えない。「楽しい雰囲気で強化練習が出来たことが優勝できた大きな原動力だと思う。倶楽部側の理解の上で練習も随分とこなしました。また加藤選手が大人になったこと、そして彼が引っ張って行ってくれたことが今日の栄光につながったのでしょう。ご声援に心からお礼を申し上げます。」と、そしてこれで「私の大役も終りました。あとは若い人に譲って……」と監督引退の弁も出る始末。

一方2年連続を果せなかつた袖ヶ浦の野本キャブテン、「千葉県同士という気持ちで気概は十分持っていたが今年は不運だった。また来年頑張るよ。」と敗者の弁。

また惜しくも初優勝を逃し2位となった東名厚木チームの曾根順之助監督(同倶楽部競技副委員長、研修会々長)は「午前中はAクラスがハーフプレー、Bも3人で4オーバーと快調なすべり出しだった。もしかしたら行けるかも知れないと密かに狙っていました。県大会(神奈川)では今年も優勝できましたし、年々選手の層も厚くなってきたし、全体的にまとまりがよくなっていたので期待していた。40名近い研修会メンバーで毎月一回の研修競技を行い、年間のトータルで選手を選考している。来年はいま一度挑戦して千葉から神奈川に優勝を……と思っています」と残念の弁。

アマチュアとしての誇り……

ゴルフの祭典、倶楽部対抗は今年も盛況裡に終った。勝者も敗者も終ってみればそこには社会人同士の和やかなゴルフ談義に花が咲いていた。

表彰式の席上、挨拶の中で武内連盟副理事長は健

闘した全選手の劣をねぎらう一方で、「昨今アマチュアとして度の過ぎた賞品などの出るコンペに参加するケースが目立っているので充分自粛して欲しい」と注意があったがアマチュア意識の欠如がみられがちであり、こうした社会批判が高まりつつある中で適切な忠告も必要であろう。同時にルール上の問題の一言付言しておかねばなるまい。

倶楽部対抗の競技を通じて今回も幾つかのルール上のトラブルがあった。いわばゴルフの原点に戻つて考えればルールそれ自体競技者自身の問題である。マナーは勿論のこと、ルールに対しても厳しくかつ熟知することがゴルファーとして絶対欠かしてはならない第一条件である。

いかなる不運でも甘んじて受けることが美德とされているゴルフの原点が、今日では救済を自から求める傾向が強い。ルールに対して厳しさが足りないということであろう。より正しくより公平に競技が進められること、そこにアマチュアリズムの本質があるのではないだろうか。

ゴルフ社会の道義が地に墜ちて来たと嘆く批判を耳にする中で、特に社会人ゴルファーとしてトップの地位にある倶楽部対抗の出場選手たちは、人一倍これらの問題について責任ある行動をとつてこそアマチュアとしての誇りが保てるのではないか。

問題が提起され、反省があつてこそそこに進歩が生まれるとしたら、倶楽部対抗はそうした意味からも意義深いゴルフ競技会といえるのではないかだろうか。

千葉カントリーの優勝に敬意を表し、来年また新たな戦いの為にすべての倶楽部が研鑽して捲土重来を期してこの大会に集うことを願いながらこの観戦記を閉じたい。



▲各チームの健闘をたたえあい乾杯する……中央は中井競技委員長

昭和62年度 関東倶楽部対抗決勝競技成績表

昭和62年6月30日(火) 於:取手ゴルフ倶楽部

Aクラスメダリスト	今田 幸雄 浜松豊岡国際カントリークラブ	72(35・37)
//	田辺 嘉一 飯能ゴルフクラブ	72(35・37)
Bクラスメダリスト	加藤 一彦 千葉カントリークラブ	71(36・35)

優勝 千葉カントリークラブ 得点451		
氏名	アウト イン 合計	順位
水 井 雄 次	38 37 76	
今 井 良 健	39 37 76	ベスト6
鷲 野 伸 雄	39 38 77	
伊 丹 伸 一郎	41 42 83	451
竹 田 隆 光	38 37 75	
林 田 ヨシオ	38 38 76	1位
加 藤 邦 伸	36 35 71	
平 井 隆 夫	40 43 83	

(チーム平均ストローク: 77.13)

2位 東名木カントリー倶楽部 得点457		
氏名	アウト イン 合計	順位
全 房 一	38 36 76	
大 球 太	39 41 80	ベスト6
大 石 箕	37 41 78	
田 边 重	35 40 75	457
田 中 七 郎	36 41 77	
原 藤 雄	41 38 79	2位
森 深 伸	40 38 78	
亀 ヶ 田 修	37 38 75	

(チーム平均ストローク: 77.00)

3位 大利根カントリークラブ 得点457		
氏名	アウト イン 合計	順位
竹 田 葵 雄	37 38 75	
大 木 勉	37 38 75	ベスト6
西 田 仁	38 42 80	
初 見 順	35 38 73	451
小 野 高 伸	40 40 80	
赤 井 正 輝	38 40 78	3位
林 恒 伸	39 39 78	
高 野 善 次	39 39 78	

(チーム平均ストローク: 77.13)

4位 アジア下館カントリー倶楽部 得点458		
氏名	アウト イン 合計	順位
生 井 達 一郎	39 42 81	
木 村 常 男	39 37 76	ベスト6
平 沢 彰	40 38 78	
猪 守 弥 伸	46 44 90	458
松 野 真 夫	39 38 77	
谷 伸 高 之	33 42 75	4位
生 井 光 伸	34 38 78	
藤 井 安 美	38 38 76	

(チーム平均ストローク: 78.13)

5位 横浜カントリークラブ 得点458		
氏名	アウト イン 合計	順位
佐 藤 正 年	37 41 78	
猪 肇 実	40 39 79	ベスト6
伊 丹 審 好	41 41 82	
山 口 梅 吉	35 41 76	458
健 容 脱	38 36 74	
小 林 治 脱	39 38 77	5位
森 山 茂 進	37 37 74	
保 利 裕	41 42 83	

(チーム平均ストローク: 77.88)

6位 武藏カントリークラブ 得点461		
氏名	アウト イン 合計	順位
水 井 雄 次	38 37 76	
今 井 健 雄	39 37 76	ベスト6
鷲 野 伸 雄	39 38 77	
田 边 尚 一郎	41 42 83	451
竹 田 隆 光	38 37 75	
林 田 ヨシオ	38 38 76	1位
加 藤 邦 伸	36 35 71	
平 井 隆 夫	40 43 83	

(チーム平均ストローク: 77.75)

7位 我孫子ゴルフ倶楽部 得点461		
氏名	アウト イン 合計	順位
日 本 忠 志	40 38 78	
尾 伊 秀 男	43 40 83	ベスト6
島 本 錦 男	38 41 79	
新 井 安 伸	39 39 78	461
森 正 隆	39 39 78	
河 内 清 二 郎	34 39 73	6位
山 口 現 雄	38 40 78	
浅 川 康 康	37 38 75	

(チーム平均ストローク: 78.38)

10位 戸塚カントリー倶楽部 得点463		
氏名	アウト イン 合計	順位
青 田 嘉 彦	42 37 79	
長 谷 川 弘 志	39 38 77	ベスト6
池 田 保 久	41 39 80	465
原 富 男	36 40 76	
黒 木 康 之	41 40 81	16位
武 井 茂 春	41 37 78	
庄 子 昭	39 39 78	

18位 太田双葉カントリークラブ 得点465		
氏名	アウト イン 合計	順位
青 田 嘉 彦	42 37 79	
長 谷 川 弘 志	39 38 77	ベスト6
池 田 保 久	41 39 80	465
原 富 男	36 40 76	
黒 木 康 之	41 40 81	16位
武 井 茂 春	41 37 78	
庄 子 昭	39 39 78	

(チーム平均ストローク: 78.25)

11位 戸塚カントリー倶楽部 得点463		
氏名	アウト イン 合計	順位
宮 本 忠 志	40 38 78	
尾 伊 秀 男	43 40 83	ベスト6
島 本 錦 男	38 41 79	
新 井 安 伸	39 39 78	461
森 正 隆	39 39 78	
河 内 清 二 郎	34 39 73	6位
山 口 現 雄	38 40 78	
浅 川 康 康	37 38 75	

(チーム平均ストローク: 78.38)

12位 富士宮ゴルフクラブ 得点463		
氏名	アウト イン 合計	順位
松 野 忠 男	37 43 80	
高 木 勝 也	38 42 80	ベスト6
奥 山 利 行	41 41 82	
益 田 一 利	40 40 80	463
山 模 邦 夫	42 40 82	
間 間 樹 一	36 39 75	11位
木 村 孝 介	37 40 78	
川 井 茂 伸	38 41 79	
茂 川 茂 美	37 37 74	

(チーム平均ストローク: 78.38)

13位 浜松豊岡国際カントリークラブ 得点464		
氏名	アウト イン 合計	順位
大 堀 利 一	40 39 79	
神 田 家 三	37 41 78	ベスト6
佐 々 木 謙 之	38 44 82	
小 岩 一 雄	38 39 77	461
内 田 健 一	37 39 76	8位
鶴 田 勇 伸	41 40 81	
松 田 安 伸	39 40 79	
安 田 駿 伸	40 39 79	
成 田 敏 伸	36 39 79	
森 田 敏 伸	37 39 79	
田 井 敏 伸	37 38 75	

(チーム平均ストローク: 78.13)

14位 袖ヶ浦カントリー倶楽部 得点464		
氏名	アウト イン 合計	順位
神 宮 功 右	39 42 81	
小 山 田 孝 士	36 38 74	ベスト6
飯 岡 謙 伸	38 38 76	
森 小 林 恵	37 39 76	461
森 田 浩 敏	43 44 87	
森 田 勝 也	39 41 80	
森 田 勝 也	39 41 80	
森 田 勝 也	39 41 80	
森 田 勝 也	39 41 80	

(チーム平均ストローク: 78.63)

15位 東名カントリー倶楽部 得点465		
氏名	アウト イン 合計	順位
大 島 敏	39 40 79	
井 草 浩	37 41 78	ベスト6
山 本 泰 朗	38 40 78	
小 沢 清 水	39 44 83	463
高 安 信 行	40 37 77	
岸 本 康 二	38 37 75	10位
高 木 茂 伸	38 37 75	
高 木 茂 伸	38 37 75	
高 木 茂 伸	38 37 75	
高 木 茂 伸	38 37 75	
高 木 茂 伸	38 37 75	
高 木 安 和	39 40 79	
高 木 安 和	39 40 79	

(チーム平均ストローク: 78.50)

16位 取手ゴル夫倶楽部 得点472		
氏名	アウト イン 合計	順位
酒 井 佐 之	40 41 81	
佐 佐 宮 志 郎	39 43 81	ベスト6
松 道 滉 宏 邦	38 41 79	472
高 野 伸 介	40 37 77	22位
鈴 木 俊 介	37 44 85	
平 川 文 夫	35 44 87	
瀬 戸 口 猛	43 39 82	

(チーム平均ストローク: 79.38)

17位 畠谷野カントリー倶楽部 得点468		
氏名	アウト イン 合計	順位

<

昭和62年度 関東ジュニアゴルフ選手権競技

主催 関東ゴルフ連盟 関東高等学校ゴルフ連盟 スポーツニッポン新聞社

- 予選競技日 7月21日(火)～23日(木)
- 競技会場 ノーザンカントリークラブ・錦ヶ原
ゴルフ場
- 使用コース なの花コース 5875ヤード パー71
さくら草コース 6,823ヤード パー72
- 出場者数 高校男子の部 954名
中学男子の部 150名
高校・中学女子の部 101名
計1205名
- 競技方法 18ホール・ストローク・プレー
- 予選通過者 高校男子 141名
中学男子 25名
高・中学女子 15名



観戦記・写真 KGA広報委員 石川博英

●予選競技

今年は異常気象と云うのであろう、高温多湿で不快指数は高い。そんな気候の中、夏休みに入るとすぐにジュニア達の予選競技が始まる。

3日間で1205名という想像を絶する大人数の参加者達を、高校男子はAからE迄の9組に、中学、女子を加えて11組の予選をこなさなければならない。これは

過去最高の参加者で、午前は7時半、午後は11時半から2つのコースを使用しての競技である。年々増加する参加者をそのまま受け付けていたのでは、競技成績はおろか、運営が不可能となる為、制限を設けて実施した。

最悪記録は154ストローク(中学女子)で、その他は110前後が下位で、規制した結果が出ていた。中には自己申告のスコアに疑わしい者もいたが、「信用するしか無く組合せには大変神経を使った」「虚偽の

- 決勝競技日 7月29日(水)～30日(木)
- 競技会場 武藏カントリークラブ・笹井コース
高・中学男子 7,012ヤード パー72
高・中学女子 6,573ヤード パー76
- 競技方法 29日 高校男子の部
18ホール・ストローク・プレー
30日 高校男子の部
18ホール・ストローク・プレー
30日 中学男子の部
18ホール・ストローク・プレー
30日 高・中学女子の部
18ホール・ストローク・プレー



▲「参加者全員集合」
(左側)高校ジュニア
(中)女子ジュニア(右側)中学ジュニア

●決勝競技

今年は、昨年迄の2日間54Hの競技を改め、高校は18Hづつ2日間通算36H、中学、女子は18Hで優勝を争う事になった。そのため全体にプレーに対する余裕が見え競技内容も非常に充実し、健康管理上も、暑い夏場の事とて、万全の対策と、すこぶる評判が良かった。シード方式も好評であった。

決勝の舞台は例年のことながら誠にすばらしく、今年も最高のコースコンディションであった。距離もフルバックを使った為に十二分で、ジュニア達には、タフなコースとなった。「決勝になると違う、もちろんむずかしい」。『飛ばさなければスコアにならない。自然に力が入って……』と云う声もあった。

第一日が終って見れば、予想した選手が出て来た感じで、優勝候補の1人、丸山茂樹(日体荏原3学年)と、阿久津英司(目黒3学年)の73をトップに、75で



▲ワンホール、ワンホール、スコアを付ける選手達



▲高校男子の部 ラストで巡った丸山、阿久津、小倉、佐藤選手。

▶見事、優勝をはたした(中)高校男子 丸山茂樹(日体荏原3)

(右)女子の部 北川道子(堀越高3)

(左)中学の部 白浜浩高(啓明学園3)



最終組前の加藤が73のスコアで(通算149) 堂々2位入賞は健闘であった。中学は、2年連続優勝の白浜浩高の76。(啓明学園3年、父親が白浜郁雄プロ) 女子は北川道子(堀越3年)で82の優勝だった。

丸山は、今年の世界ジュニアの日本代表で7位の好成績をおさめ、中旬に帰国してこの試合にのぞんだ。阿久津は、今年の世界ジュニアの日本代表で7位の好成績をおさめ、中旬に帰国してこの試合にのぞんだ。

この丸山に対して、河久津、小倉、加藤あたりがどうぞまでいいさがるかが見物であったが、期待に反し、早々に河久津、小倉が落ち、佐藤も今ひとつスコア一のがびなかった。結果は2日間安定したゴルフを開いた丸山に凱歌が上った。

彼は長距離打者であるばかりか、オールラウンドプレイヤーで「グリーンを外すとしても、落ち付いてプレーが出来る様になり、それが良いスコアに結びついた」と、自己のスコア74を冷静に振り返っていた。通算147の見事な優勝だ。

何事もなくすべての競技を終った。表彰式では、斎藤文志郎競技委員長(KGAジュニア委員長)が成績を発表。次に細川理事長が挨拶で、優勝者を称え、全員の労をねぎらい、また、自分達のジュニア時代を振り返り「この恵まれた環境に感謝し、学業に、そしてゴルフに精進して欲しい」と含蓄にとむことばを贈った。

優勝盃とメダルは武内副理事長が1人1人に「おめでとう、暑かっただろう」と、ねぎらいながら手渡された。入賞したジュニア達にとっては思い出深い夏となったことだろう。



▲細川理事長挨拶「恵まれた環境に感謝し、学業にゴルフに精進されたい」

昭和62年度 第8回 関東ジュニアゴルフ選手権決勝競技成績表

(高校男子の部)

順位	氏名	学校名/学年	1R	2R	合計
1	丸 山 茂 樹	日 体 莊 原 (3)	73	74	147
2	加 藤 雅 成	東京学館浦安 (2)	76	73	149
3	阿久津 美 司	自 水 城 (2)	73	77	150
4	佐 藤 貴 士	日 大 一 (3)	75	76	151
5	小 倉 孝 売	堺 玉 栄 (3)	77	77	154
6	金 谷 雅 稔	八 ワ イ	79	75	154
7	細 川 和 茂	日 体 莊 原 (2)	77	78	155
8	尾 崎 智 春	千 葦 日 大 一 (1)	79	76	155
9	石 川 淳	東京学館浦安 (2)	80	76	156
10	檜 山 英 一 郎	日 体 莊 原 (1)	80	77	157
11	小 西 仁 仁	堺 玉 栄 (2)	81	76	157
12	武 田 信 之	日 大 中 野 (3)	77	80	157
13	後 藤 尚	堺 玉 栄 (2)	79	78	157
14	金 沢 美 昭	日 体 莊 原 (2)	81	77	158
15	竹 淳 行	武 陽 文 園 (1)	83	75	158
16	横 原 洋 行	日 大 (2)	81	77	158
17	横 沢 登	水 城 (1)	77	81	158
18	金 田 雅 滋	日 体 莊 原 (3)	80	79	159
19	具 佐 伸 誠	パークシニア (3)	83	76	159
20	佐 藤 延 黙	日 体 莊 原 (3)	81	79	160
21	佐 藤 信 信	薬 園 台 (3)	84	76	160
22	佐 浜 淳	日 体 莊 原 (3)	81	80	161
23	喜 喜 伸 宏	日 体 莊 原 (2)	82	79	161
24	齊 田 実 章	向 上 (3)	81	80	161
25	高 塚 田 実	明 中 八 (2)	83	78	161
26	塙 田 好 忠	京 北 (3)	82	79	161
27	鈴 木 德 進	堺 玉 栖 (3)	80	82	162
28	阿 部 伸 雄	青 山 学 院 (1)	78	85	163
29	平 井 公 直	木 更 義 樹 (3)	85	78	163
30	吉 原 啓 順	堺 玉 栄 (3)	80	83	163
31	豊 原 啓 光	伊 東 商 (3)	82	81	163
32	原 渕 宏 紀	青 山 学 院 (3)	80	83	163
33	小 林 克 春	水 城 (3)	83	80	163
34	鈴 木 圭 聖	千 葦 日 大 (3)	81	82	163
35	白 石 昌 裕	東京学館浦安 (3)	82	82	164
36	石 井 公 真	東 海 大 浦 安 (3)	87	77	164
37	石 井 伸 真	水 城 (3)	83	81	164
38	原 田 真 之	堺 玉 栄 (3)	78	86	164
39	植 田 正 太 郎	日 体 莊 原 (3)	84	81	165
40	岡 本 順 勝	千 葦 文 園 (2)	83	82	165
41	茂 木 繁 守	足 利 大 学 (2)	84	81	165
42	堺 谷 和 将	堺 玉 栄 (2)	83	82	165
43	中 田 利 一	明 大 中 野 (3)	84	82	166
44	橋 田 優 二	堺 玉 栄 (3)	85	81	166
45	内 藤 雄 士	日 大 明 誠 (3)	83	83	166
46	久 保 谷 健 鍵	奏 曲 會 崇 (1)	85	81	166
47	高 田 稔 稔	若 溪 学 園 (2)	85	81	166
48	中 田 権 俊	水 城 (3)	82	84	166
49	師 国 同	堺 玉 栄 (3)	85	81	166
50	興 田 雄 一	堺 玉 栄 (3)	86	80	166
51	日 野 磨 人	日 大 (3)	84	82	166
52	親 山 美 太	日 大 (2)	81	86	167
53	松 本 卓 司	伊 東 商 (1)	83	84	167
54	秋 山 寿 司	日 体 莊 原 (3)	86	81	167
55	柴 田 直 実	堺 玉 栄 (3)	85	82	167
56	金 子 サ タ ケ	ハ ワ イ	84	84	168
57	新 田 秀 和	日 大 (3)	85	83	168
58	白 山 貴 太	土 浦 日 大 (1)	87	81	168
59	白 石 哲 也	都 立 玉 川 (3)	84	84	168
59	穢 嶋	伊 東 商 (3)	82	86	168

順位	氏名	学校名/学年	1R	2R	合計
59	井 口 靖	堀 水 日 始 (2)	84	84	168
60	山 中 崎	大 大 姚 (2)	84	85	169
61	木 村 晴	大 大 姚 (3)	83	86	169
62	猪 俣 伸	大 大 姚 (1)	88	81	169
63	高 岩 桂	玉 栄 (3)	89	80	169
64	足 沢 守	堀 水 日 始 (2)	88	81	169
65	河 足 守	堀 水 日 始 (1)	89	80	169
66	横 田 賀	堀 水 日 始 (2)	84	85	169
67	森 田 純	堀 水 日 始 (1)	84	86	170
68	森 田 光	堀 水 日 始 (2)	83	87	170
69	大 久 保	堀 水 日 始 (3)	86	84	170
70	南 岩 伸	堀 水 日 始 (3)	89	82	171
71	岡 田 起	堀 水 日 始 (2)	87	84	171
72	東 田 起	堀 水 日 始 (3)	85	86	171
73	堀 田 光	堀 水 日 始 (2)	84	87	171
74	大 野 伸	堀 水 日 始 (1)	83	88	171
75	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	83	87	171
76	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	88	81	171
77	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	83	88	171
78	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	87	82	172
79	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	86	84	172
80	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	85	87	172
81	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	86	85	173
82	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	84	87	173
83	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	86	85	173
84	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	87	85	173
85	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	88	84	173
86	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	84	87	173
87	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	82	91	173
88	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	86	84	173
89	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	88	82	173
90	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	89	80	173
91	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	86	84	173
92	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	87	85	173
93	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	88	86	173
94	大 野 伸	堀 水 日 始 (3)	87	84	173
95	大 野 伸	堀 水 日 始 (2)	89	95	184

競技

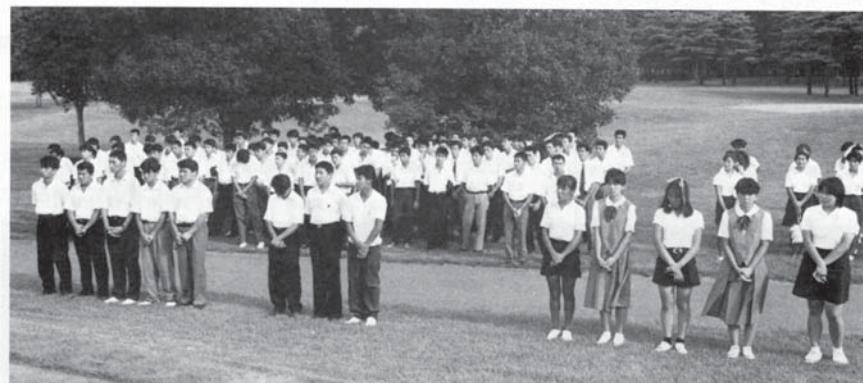
昭和62年度 第8回 関東ジュニアゴルフ選手権決勝競技成績表

(中学男子の部)

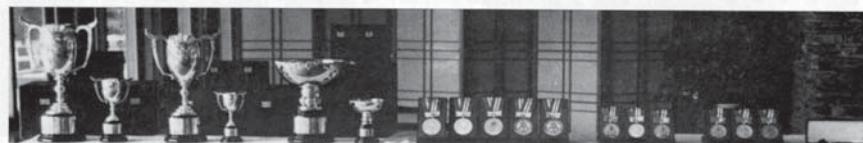
順位	氏名	学校名/学年	アウト	イン	合計
1	白浜浩高	啓明学園(3)	39	37	76
2	日野雄大	八王子市立第3(3)	39	39	78
3	中島尚行	市原市立八幡(3)	38	41	79
4	内藤潔	成蹊中(3)	42	38	80
5	杉山大作	秀明学園(3)	37	44	81
6	鈴木一徳	花園(3)	42	40	82
7	石川康徳	西方(3)	40	43	83
8	D.S.レミ	セントメリーズ南(3)	42	42	84
9	宮本勝昌	熱海(3)	42	42	84
10	重原啓利	宇都宮市立横川(2)	42	43	85
11	片山晋昇	下館市立南(3)	46	40	86
12	村田誠	成田高附(3)	44	43	87
12	増田元長	暁星国際(3)	45	42	87
12	森貴之輔	太田市立西(2)	39	48	87

(女子の部)

順位	氏名	学校名/学年	アウト	イン	合計
1	北川道子	堀越高(3)	40	42	82
2	小久保由美	堀玉栄高(1)	41	43	84
3	金沢菜実	常総学院高(3)	44	41	85
3	福嶋里子	丸山台中(2)	46	39	85
5	能登亞紀	堀玉栄高(1)	43	42	85
6	福島沙和佳	東京女子学院高(3)	44	43	87
6	C.ホシノ	ハワイ(4)	42	45	87
6	井上陽子	埼玉市立厚木中(3)	40	47	87
L.	チネン	ハワイ(4)	45	43	88



▲表彰式 各部門の入賞者が一列に 左より高校男子、中学男子、女子の各選手



新規加盟倶楽部紹介

俱楽部代表者 井上博司 大正11年9月12日生

4. 俱楽部部分科委員長名

コースグリーン委員長 落合 正

ハンディキャップ委員長 岩木文昭

競技委員長 坂見敏夫

ハウス委員長 井上 一

プロキャディー委員長 山分 栄

フェローシップ委員長 桃井直造

エチケット委員長 岩瀬 清

5. 支配人 木太久春美 昭和9年5月17日生

6. 俱楽部概要

那珂川中流の丘陵地に展開する本格派のチャンピオンコースで、フラットな幅広いフェアウェイと微妙なアンジュレーションが魅力あるコースレイアウトです。桜コース、草月コース、椿コースの各コースともフラットですが、それぞれ違います。プレーを充分満足できる設計が施された27ホールです。

鶴ヶ島カントリークラブ



1. 俱楽部名 鶴ヶ島カントリークラブ

住所 埼玉県入間郡日高町大字新堀1070

電話 04298-5-2451 (代)

2. 開場年月日 昭和53年12月1日

3. 理事長名 石原 俊 明治45年3月3日生

俱楽部代表者 理事長 石原 俊

常務理事 大澤次次

4. 俱楽部部分科委員長名

競技及びルール委員長 大山高志

ハンディキャップ委員長 刑木和彦

コース委員長 矢崎恭徳

エチケット委員長 小川 薫

フェローシップ委員長 年森 靖

プロゴルフ及びキャディー委員長 菅 保之

ハウス及び食堂委員長 村田 滉

5. 支配人 当クラブ支配人制度がないため事務取扱い 常務理事 大澤武次 大正3年6月25日生

6. 俱楽部概要

当鶴ヶ島カントリークラブは、幾多の名門コースがひしめく埼玉県に、昭和53年12月1日開場致しました。

奥武隈自然公園の中に位置し、都心から車で1時間余の交通至便のところにありながら、時に深山幽谷を思わせる自然環境のなかで周囲の田園風景や山野地帯と相まって気品且つ楽しいクラブライフを享受していただけるように、メンバー主体の運営を心掛けております。

他のクラブとは違い、会員は全て法人会員となっております。コースは、丘陵地の緩やかなスロープを巧みに生かした18ホールで、心ゆくまで豪快なショットが楽しめるもの、テクニカルショットが必要なもの等、それぞれに特徴があります。

また、ホール間の連絡路もプレー感覚をそこなうことのないよう、7機のリフトを利用しておられます。

末筆ではございますが、会員俱楽部の皆様に御指導、御鞭撻のほどお頼い致します。

ユーアイゴルフクラブ



1. 俱楽部名 ユーアイゴルフクラブ

住所 柏木県那須郡小川町大字白久字義和1337-2

電話 028796-2191

2. 開場年月日 昭和50年8月17日、18H

昭和60年7月7日、9H

3. 理事長名 藤井勝志 大正4年4月13日生

新規加盟倶楽部紹介



1. 倶楽部名 グランドスラムカントリークラブ

住所 茨城県常陸太田市田波町
電話 0294(74)4111

2. 開場年月日 昭和60年7月20日

3. 理事長名 佐々木陽信 大正2年8月14日生

5. 支配人 山中博昭 昭和36年12月13日生

6. 倶楽部概要

GSCCのある常陸太田市は、水戸開港が晩年を過ごされた土地であるが氣候は温暖で大変過ごしやすい土地がらです。天候も安定しており、周辺には梨、葡萄（巨峰）の産地であり、近くに大洗海岸久慈浜漁港をひかえ海の幸の豊富なところである。又、年間を通じて雨は少なく冬場でも雪はほとんど降らず快適なプレーを楽しんで頂けます。

私どもの名物ホールは、西コース4番ホールPAR4、317Y。ティ・グランドから250Y付近が右側に池に向かってスロープがついており第1打の狙い場所が重要となる。第2打地点からグリーンまで少々の打ち上げとなり、グリーンフェイスが見えないので、ティ・グランドにおいてホールピンの位置を確認しておく必要がある。

また、このホールは別名「群蝶の舞」と言われており、大小9個のガードンシンカー、クロスパンカーが配され、プレイヤーの目を楽しませてくれる。

チェックメイトカントリークラブ



1. 倶楽部名 チェックメイトカントリークラブ

住所 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領3033-1
電話 0465-82-1311 (代)

2. 開場年月日 昭和56年9月1日

3. 理事長名 川口勝弘 昭和17年1月3日生
俱楽部代表者 川口勝弘

4. 倶楽部分科委員長名

競技ルール委員長 本部弘親
ハンディキャップ委員長 種谷邦夫

ハウス・キャディ委員長 太田哲男
コース委員長 谷村哲二

フェローシップ委員長 渡辺謙一郎
注: 62年9月末に改選の予定

5. 支配人 河崎政照 昭和6年9月17日生
6. 倶楽部概要

四季を通じておだやかな気候に恵まれ、雄大な海と、緑豊かな山の大自燃に抱かれた、房総半島の中心部に展開する全1,200,000m²の「八戸カントリー倶楽部」

東京より90分、国道297号線沿いに位置するなだらかな房総丘陵の地形を巧みに活かした、桜、楓、梅の3コースからなる

27ホールは、小松原三夫プロ監修のもとビギナーからトーナメントプロまでチャレンジできる、格調高いチャンピオンコ

ースを目指しております。

桜コース3,469ヤード(3,172m)ノルマ36は美しい自然を背景に、適度なアップダウンと点在する池、グリーンを取り囲むたくさんのバンカーをレイアウトして、ゆったりとした広がりを觀せる、風格を持ったメインコースです。桜7番、すばらしい眺望と戦略性に富んだ打ち下ろしのショートホール。池

新規加盟倶楽部紹介

の中にぽっかりと浮かぶグリーンはメルヘンを誇る、当倶楽部の名物ホールです。

清川カントリークラブ



1. 倶楽部名 清川カントリークラブ

住所 神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷657

電話 0462(48)1121

2. 開場年月日 昭和60年9月22日

3. 理事長名 理事長 山下 勇 明治44年2月15日生

俱楽部代表者 理事長 山下 勇
常任理事 佐藤敏夫

4. 倶楽部分科委員長名

フェローシップ委員長 草場敏郎

競技委員長 安原 翁

ハンディキャップ委員長 青木辰男

コース委員長 利光達三

ハウス食堂委員長 山崎富治

プロキャディ委員長 原 五郎

財務委員長 鬼頭誠一

5. 支配人 相原一成 昭和28年5月28日生

6. 倂楽部概要

当コースは丹沢大山国定公園内東南部に位置し、周辺は宮ヶ瀬ダム（68年3月完成）を北に控え緑豊かな自然林と風光明媚な渓谷美に首都圏50km圏内という交通至便な景勝地として、四季を観察させております。

設計は世界各地の実績と経験を生かし、J・ニクラウスが経営する「ゴルフォース社」。芸術性豊かな微妙なアンジュレーションにグラスバインカーを多用し、USGAセクションによるペントサンドワングリーンにより戦略的ポイントを高めたコースデザインにて完成致しました。

サンレイクカントリークラブ



1. 倂楽部名 サンレイクカントリークラブ

住所 栃木県今市市長畠4337

電話 0288-27-0088 (代)

2. 開場年月日 昭和61年4月23日

3. 理事長名 大米佐武郎 大正3年11月3日生

俱楽部代表者 石川昌雄 明治43年3月3日生

4. 倂楽部分科委員長名

運営委員長 石川 勇

5. 支配人 植木正清 昭和22年11月26日 (副支配人)

6. 倂楽部概要

前日光連山のふもと今市市の南端、鹿沼市に隣接する位置にある当倂楽部は、西北部の山にこまれた東南の緩斜面に広々と展開している。交通は、東武日光線下今市駅から25分、JR

宇都宮駅から40分、東北自動車道宇都宮ICより25分、宇都宮日光道路大沢ICより10分に位置する林間コースである。リー・トレビノ氏の設計によるペントのワングリーンで、コース内には大小11の池とその流れ入り入れ、ルート攻略には種々なショットが要求される戦略性の高い全長6840ヤードのレイアウトになっている。クラブハウスは丹下建三氏の設計による斬新で明るい白亜の建物で特に18番ホールは、水に映るクラブハウスに向かって、第二打をその池に浮かぶグリーンに正確に攻める、フィニッシングの名物ホールである。

敷島カントリー倶楽部



1. 倂楽部名 敷島カントリー倶楽部

住所 山梨県中巨摩郡敷島町神戸440

電話 0522-77-6111 (代)

FAX 0522-77-0100

2. 開場年月日 昭和52年10月15日

3. 理事長名 島津寿秀 大正10年4月18日生

俱楽部代表者 理事長 島津寿秀
キャプテン 楠澤克己

4. 倂楽部分科委員長名

グリーン委員長 国島悟之助

ハウス委員長 小林 茂

プロ及びキャディー委員長 中山典村

コンペティション及びルール委員長 鈴木保正

ハンディキャップ委員長 千野 一

エチケット及びフェローシップ委員長 高野綾左衛門

5. 支配人 斎藤 稔 昭和8年4月29日生

6. 倂楽部概要

渓谷美日本一の景勝地・昇仙峡に隣接する、海拔950m~1,000mの山間に展開する南斜面のコースで、特にクラブハウスからの眺望がすばらしい。

眼下に千代田湖と甲府盆地、正面に御坂山系と雲霧富士、右に蛇行する富士川と南アルプス連峰、左に昇仙峡の山々と四季を通じ、その景色は水墨画を思わせます。また、春の木々の芽吹きや山菜摘み、夏の涼風、秋の紅葉やきのこ、栗狩りと、その取りまく環境は、都会の雑踏を忘れさせ、身体をリフレッシュしてくれます。

コースは、箱庭を思わせるこち良いレイアウトで、緑地帯も多く、全ホールから富士が望めます。

特にIN16番ホールからの富士はすばしく、その頂に向かってティショットができる、戦略性も非常に高いホールで、アイアンショットの切れが、ハイスコアを生みます。

また、このホールのセカンド地点からは、奥昇仙峡の神秘と歴史の山・太刀岡山も望めます。

交通機関は、中央高速道利用の場合、韮崎ICで降り、コースまでは15分(11km)、東京八王子ICからは、90分(110km)で到着できます。

またJR中央線利用の場合は、甲府駅下車北口からタクシーにて、35分で到着いたします。

KGA 夏季ジュニア・ゴルフ教室

第1教室 8月17日(月) 参加者39名

桜ヶ丘カントリークラブ

参加資格 18歳未満

1ラウンド100ストロークまで

第2教室 8月20日(木) 参加者42名

東京ゴルフ倶楽部

参加資格は第1教室と同じ

初心者教室 8月28日(金) 参加者40名

ノーザンC.C 錦ヶ原ゴルフ場

参加資格 18歳未満男女初心者

この炎天下、教える方も、教わる側も、よっぽどゴルフが好きでなければつとまるまい。もっとも、遊びとスポーツは、教わる方が楽しいときまっている。ジュニア達はご機嫌である。いつもは狭い“鳥籠”でクラブを握るしかない子どもたちが、今日は名門コースで、思い切り振りまわせるのだ。だから、多少ボールが曲がろうが、チョロしようが、そんなこ

とには一向におかまいなし、まさしく“鳥籠”から解放された小鳥のように、広いゴルフ場を飛びまわっている感じだ。

今年も盛況かつ有意義な三日間だった。もう顔なじみになった子が、“委員のオジサン、来年もよろしくね”と、ピョコンと頭を下げて帰っていった。



▲ “ありがとうございました、委員のオジサン来年もよろしく”



▲バッティング・フォームの指導



▲ヘッドアップと体の軸のぶれは禁物



▲フォロースルーは大きく



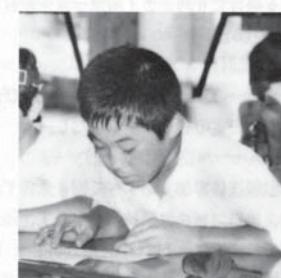
▲アドレスは方向が肝心



▲バッグなんかちっとも重くない



▲教わった事をただちに練習場で復習



▲スコア・カードの記入も大事なレッスン



▲うらやましいほどの華麗なフォーム



▲朝礼 “若者らしく、元気よくハツラツと”と先ず注意

ゴルフ Q&A

回答者：JGAルール委員 河西 幹一

JGA・KGAハンディキャップ委員長 福田 彰

Q-1 男女混合競技のティ・マークは？

昨今、各俱楽部競技会において、女子の参加者が多くなり、男女の距離の違いから、ティグラウンド上の、ティ・マークのセッティングをどうすればよいかご回答下さい。

距離の違いなど関係なく同一箇所からプレーさせているところ、あるいは男子は青、女子は白マークと、別けてプレーさせているところもあるとか。

A-1 ゴルフ規則の適用には、男女の区別なく、いずれも同一規則の適用を受けるものである。

ハンディキャップは各人のゴルフプレーの技量の巧拙、及び距離の有利、不利等を含んだスコアによって、査定され取得したものであれば、アンダーハンディキャップ競技においては同一ティ・マークからプレーするとしてもハンディキャップがそれを補うものである。従って女子が男子と同一競技に参加する場合でも同一ティ・マークからプレーするものである。

(付属規則)

IV. パーの算定に際しての参考表及び、ハンディキャップ査定の欄を参照されたし。

(JGAルール委員河西幹一)

運動競技は参加者がすべて同一条件で競うものであり、単に、ゴルフ競技のみならず、陸上、水泳等すべてに当てはまることがあります。即ち同一競技である限り同じティ・マークを使用し、同じグリーンのカップでなければなりません。従って、月例杯、理事長杯等の俱楽部競技でありながら、男子は青マーク、女子は白マークを使用することは許されません。たまたま同じ日に異ったティ・マークを使用する競技会が催されても、差し支えありませんが、これは2つの競技会を、同じ日に行ったことで、例えば男子は男子、女子は女子のみで順位を決定すべきです。

30歳代と65歳以上の男子の場合、その飛距離は男女の差より大きい場合もありますが、同一競技として行なわれており、そのバランスのためハンディキャップがあるわけです。

JGAでは、女子のコース・レートは採りあげておりません。従って女子だけのハンディキャップも考えられません。それはどの俱楽部でも女子だけの競技会は極めて少なく、男女が一緒に場合が多いからです。即ち男子のコース・レートによって女子のハンディキャップを決めておく方が実状に則したもので、これなら女子も70歳の男子も30歳のプレーヤーと同じ条件で、競技会に参加できるわけです。

異なるティ・マークを使用した競技は同一競技会とならない

なお、最近女子プロゴルファーの競技会も多く毎週のように放映されております。その際、パー72のコースがその競技に限ってパー73、74等というケースがあります。普通パー72のコースが何故パー73になるかと思われるでしょう。これは女子だけの競技であり、男女のパーの基準が異なるためです。401ヤードのホールは男子ではパー4であり女子の場合パー5となります。

アメリカでは女子ゴルファーも多く、男女一緒に競技会より男、女別々の場合が多いため、女子のハンディキャップが必要となってまいります。

男子の基準で決められた女子のハンディキャップは女子のコース・レートを基準に決めれば、10~20%程度少なくなる筈です。

(JGA、KGAハンディキャップ委員長 福田彰)

Q-2 重大な違反とは？

ルール・ブックに「重大な違反となる場合、委員会は競技失格の罰を課すことができる」(R1-2注、19-3a注、20-7b)とありますが、"重大な違反"とは具体的にどんなプレー、行為を指すのでしょうか。

A-2 ケースによって種々あろうと思うが、著しく規則無視又は規則3-4の規則に従うことを拒む様な状態であった場合、競技委員会がそのような行為に該当するかどうかを協議して、重大な違反となるかを決めるものである。

R2-1について記すと

たとえば故意にパットラインの改善した場合

・盛り上った芝目をスパイクシューズなどで過大に押えこんだ行為の繰り返して大きな靴あとを作ったような場合とか、カップのふちにとまつた球を片手でパター、一方の手をカップの中に入れておきパットした球をホールの下に落ち込む前に受け止めるような行為

・動いている球を故意に止めた違反、同時にホールアウトを完了しなかった場合、そのような違反を訂正しなかった場合など。

R19-3の場合

プレーヤーがプレーラインにいる相手、及び相手の携帯品等をその位置から移動することを求めたにもかかわらず、その求めに応ぜず、故意に球の方向を変えたり止めたような場合など。

R20-7bの場合

Q-3の回答第1図を参照。

Q-3 ウォーター・ハザードとラテラル・ウォーター・ハザードについて

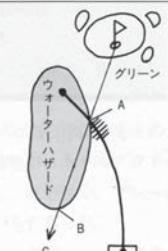
ストローク・プレーで、プレーヤーがウォーター・ハザードをラテラル・ウォーター・ハザードと取違えて、球が最後にハザードの限界を横切った地点から2クラブ・レンジス以内にドロップして、そのホールを終了してしまいました。このプレーヤーは適用できる、R26-1(a)か(b)に従って処置をしていませんので反則として罰が課せられると思いますが。また、もしその反則が重大な反則と考えられる場合、規則20-7bにより訂正しなければ失格になると聞いています。また反則の訂正を行う場合のストローク数はいくつになりますか(ティショットを池に入れて第1図のB、C線上によりプレーする場合)

A-3 ウォーター・ハザードの規則に従ってウォーター・ハザードの外側へ球をドロップすることは、該当する規則に従った行為です。然し、該当する規則に従ったがドロップした箇所が規則と一致しない誤所であるなら、その球をプレーすれば誤所からのプレーとなり、規則26条によって2打の罰を受けてホール・アウトしなければなりません。(R20-7-

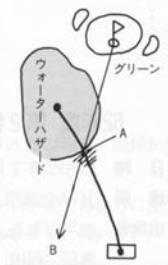
b参照)また重大な反則か否かの決定は、図解すれば下図のごとくです。

A点は球がウォーター・ハザードの限界を横切った地点

〈第1図〉



〈第2図〉



第1図の場合は重大な反則となるのでプレーヤーは、次のティ・グラウンドでストロークをする前(ラウンドの最終ホールの場合はグリーンを離れる前)であれば、2打の罰を課して第2の球をドロップして、そのホールのプレーを終了することにより、重大な反則を訂正することができます。しかし、プレーヤーはグランド終了後直ちに、その事実を委員会に報告しなければならず、これを怠った場合は競技に失格する。反則の訂正を行う場合のストロークは、ティ・ショットを池に入れる(1打)、球を池の外側へ出すための罰(1打)、▲池の外側へドロップ、▲印のドロップを訂正するのであるから、訂正の罰2打を加えてドロップしてプレーすれば5打目をプレーすることになります。(第1図のB、C線上よりプレーする場合)

訂正 前号のQ-9の回答に、まちがいがありました。「……かつホールに近そうな所……」とありますか?「……近よらない所……」のまちがいです。読者、ならびに回答者にごめいわくおかけいたしました。おわびいたします。

理事会・委員会

加盟俱楽部殿

昭和62年7月28日

関東ゴルフ連盟

理事長 細川 譲貞

62年度第2回常務理事会及び決議事項を下記の通りご報告いたします。

62年度 第2回常務理事会議事録

日 時 昭和62年7月28日(火)正午

場 所 JGA会議室

出席者 細川理事長、武内、中井副理事長、相山、藤原、福田、勝又、古賀、松浦、尾閤、斎藤、佐藤、田中、各常務理事
細川理事長、議長を務め、12時25分開会を宣言し、順次議題審議を行なった。

—決議事項—

1. 新規加盟申請俱楽部承認の件

入会審査委員会(62年7月28日 午前11時30分 JGA会議室にて開催)より上程された次記5俱楽部の入会を、慎重審議の結果、これを承認した。
 ①チェックメイトカントリークラブ(神奈川)
 ②八戸カントリー倶楽部(千葉)
 ③清川カントリークラブ(神奈川)
 ④サンレイクカントリークラブ(栃木)
 ⑤敷島カントリー倶楽部(山梨)

以上5俱楽部加盟によって、加盟俱楽部総数は366となつた。

2. 後援競技承認の件

次記競技の後援を承認した。

・第13回茨城県アマチュアゴルフ選手権大会

主 催 每日新聞社水戸支局

期 日 62年9月7日(月)

会 場 アジア下館カントリー倶楽部

3. 昭和63年度連盟主催競技開催俱楽部の件

コース選定委員会より上程され、上記の件についてこれを承認した。なお、開催日については、JGA主催競技のスケジュールと調整し、変更もありうることを確認した。※①

4. 各分科委員会報告

事務局長より、机上配布の委員会議事録にもとづき、これまで開催された各分科委員会の報告がなされた。※②

5. 競技報告

事務局長より、本常務理事会まで開催された連盟主催競技の報告がなされた。※③

6. JGA体協加盟(復帰)問題について

上記の件について、細川理事長、武内副理事長より、下記のような報告がなされた。
現在のJGAの組織では、体協の加盟規定にそぐわないところがある。したがって理事会では加盟の方向で研究中であるがそのためにも各県の動き情報を収集、提供してほしい。いずれにしても、ゴルフに全く関係のない人たちが不純な動機で団体を組織し、各県の体協に加盟申請されることは放置できない。各県の常務理事、理事が中心となって組織化されることがペターである。

以上をもって、上程された議事の審議を終了、13時40分、議長、閉会を宣した。

※①63年度開催俱楽部一覧及び日程表35頁参照

※②各分科委員会議事録34頁参照

※③競技成績 本号4~10、14~24頁競技欄参照

62年度 第3回ハンディキャップ委員会議事録

日 時 昭和62年7月9日(木)正午

場 所 JGA会議室

出席者 福田委員長、古茶、渡邊副委員長、小林、桑原、松本、吉沢、三宅、宮元、岡安、寺田、佃、鶴島、植松、山田、横内、各委員

—決議事項—

1. 各県ハンディキャップ委員長会議について

前回委員会で委員長より提案された、上記の件について、次記の通り確認した。

開催県については委員長・副委員長が検討、決定し、具体的な方法、内容については、当該県の委員と相談する。

2. ハンディキャップ委員会便覧について

一部改定・加筆した別紙「便覧」について、加盟俱楽部、理事会、ハンディキャップ委員長に送付することとした。

俱楽部によっては、ハンディキャップ委員の交替があり、新任の委員も多いことが想像されるので、基本的な内容のものからはじめて、定期的に送付することを確認した。

また、委員長名での「挨拶文」を添付し、資料として関係者に回覧、保存をお願いすることとした。

3. コース・レートの再査定について

ハンディキャップと不即不離の関係にある、コース・レートについては、すでに査定済みのコースでも年月が経過するとともに状況が変わるので、なるべく再査定することが望ましく、各県の委員もこの方向で指導することを確認した。

また、コース・レート委員会にも、この旨提案、協力要請することを確認した。

62年度 第4回月例競技委員会議事録

日 時 昭和62年7月20日(月)午前10時30分

場 所 JGA会議室

出席者 松野委員長、山崎、川島両副委員長、岡田、大久保、岡野、嶋田、各委員

—討議及び決議事項—

1. 7月度競技報告及び総括

(女子)大久保委員より次記の報告、総括がなされた。

コース側(東京国際)が万端の準備をととのえてくれたので、午後18時無事にホールアウトすることができた。しかし、風が強く、プレーの進行が例月よりおくれがちであった。夏場の27ホール・ストロークプレーは再考すべきと思う。

申込者 52名

欠席者 3名

参加者 49名

(男子)山崎副委員長より次記の報告、総括がなされた。

36ホールストロークプレーのため進行に注意しタイムチェック表をキャディに持たせた。そのためスムーズに進行し、5時45分ホールアウトした。また、バック重量の制限についても大半のプレイヤーが協力してくれた。

申込者 109名

欠席者 9名

参加者 100名

棄権者 1名

2. 8月度出場有資格者確認の件

YCCからのデーター未着につき、委員長、副委員長に事後承認を求める 것을確認した。

3. 8月のテーマ

プレーの迅速化(特にグリーン上、歩行)
前のティ・グラウンドを横切らない

4. 夏季3カ月の男女競技のホール数について

気候、開催俱楽部等の諸般の事情を考え、女子については、来年度より現27ホール・ストロークプレーを18ホールに変更することとした。男子については、次回委員会で議論、検討し決定することとした。

5. 63年度開催俱楽部について

7月20日現在、別紙の俱楽部に開催を依頼することを確認した。※①(35頁参照)

62年度 第3回コースレート委員会議事録

日 時 昭和62年8月19日(水)

場 所 草津

出席者 尾関委員長、新井副委員長、前川、北村、小林、岡田、内藤、中野各委員

—決議事項—

1. 富士カントリークラブ以下7俱楽部のコース・

レート査定の件

上記俱楽部のコース・レートについて、配布の資料をもとに次記のよう決定した。

(1)富士カントリークラブ

ペントグリーン

パック・ティー 71.7

レギュラー・ティー 69.0

(2)チェックメイトカントリークラブ

ペントグリーン

パック・ティー 71.8

レギュラー・ティー 68.7

(3)鶴ヶ島カントリークラブ

(イ)高麗グリーン

パック・ティー 70.1

レギュラー・ティー 68.2

(ロ)ペントグリーン

パック・ティー 69.3

レギュラー・ティー 67.4

(4)国際空港ゴルフ俱楽部

(イ)高麗グリーン

パック・ティー 71.1

レギュラー・ティー 69.2

(ロ)ペントグリーン

パック・ティー 70.2

レギュラー・ティー 68.4

(5)足利城ゴルフ俱楽部

(イ)高麗グリーン

パック・ティー 69.2

レギュラー・ティー 67.7

(ロ)ペントグリーン

パック・ティー 70.0

レギュラー・ティー 68.5

(6)鳩山カントリークラブ

(イ)高麗グリーン

パック・ティー 72.7

レギュラー・ティー 69.5

(ロ)ペントグリーン

パック・ティー 72.8

レギュラー・ティー 69.5

(7)草津カントリークラブ

ペントグリーン

パック・ティー 71.3

レギュラー・ティー 69.6

(8)東松山カントリークラブ

(イ)高麗グリーン

東・中 パック・ティー 71.2

レギュラー・ティー 69.1

東・西 パック・ティー 70.2

レギュラー・ティー 68.1

中・西 パック・ティー 70.2

レギュラー・ティー 67.9

(ロ)ペントグリーン

東・中 パック・ティー 72.1

レギュラー・ティー 70.0

東・西 パック・ティー 71.3

レギュラー・ティー 69.2

中・西 パック・ティー 71.7

レギュラー・ティー 69.0

2. 62年度コース・レート査定スケジュールの件

8月19日現在、申請のあった俱楽部について、別添スケジュール表の通り決定した。

62年度・コース・レート査定予定表(申請順)

俱楽部名 査定日

金砂岬カントリークラブ 9/25(金)

香木原カントリークラブ 11/16(月)

富士河口湖ゴルフ俱楽部 10/13(火)

パークレイカントリークラブ 11/11(火)

サンレイカントリークラブ 11/10(火)

うるぎハイランドカントリークラブ 10/19(月)

南千葉ゴルフ俱楽部 11/27(金)

新潟サンライズゴルフクラブ 10/28(火)

ザ・ナショナルカントリー俱楽部 10/12(月)

上総富士ゴルフクラブ 11/17(火)

昭和63年度 関東ゴルフ連盟競技 日程表

開催日	競 技 名	開催コース
※ 5月10~13日	関東女子選手権予選	第1ブロック 美 喜
5月12日(木)		第2ブロック ダイヤグリーン
5月20日(金)	関東アマチュア選手権予選	第1ブロック 東京よみうり
5月16日~5月20日(金)		第2ブロック 高 坂
5月20日(金)		第3ブロック 真 名
5月17日(火)		第4ブロック 日 光
※ 5月20~25日	関東女子選手権決勝	白 鳥
6月3日(金)	関東俱楽部対抗予選	東京地区 立川国際
5月31日(火)		埼玉地区 熊 谷
※ 5月25日(火)~5月31日(火)		千葉地区 房 總
5月31日(火)		神奈川地区 東名厚木
5月30日(月)	関東俱楽部対抗予選	第1地区 桜
※ 5月25日(火)~6月3日(金)		茨城 第2地区 日 立
5月26日(火)		第1地区 杉 ノ 郷
5月31日(火)		枥木 第2地区 あさひヶ丘
5月27日(水)		群馬地区 ノーザン赤城
9月11日(金)	62年	静岡地区 静岡(浜岡)
		長野地区 松 本
		新潟地区 大 新潟

開催日	競 技 名	開催コース
6月14日(火)~6月16日(木)	関東アマチュア選手権決勝	中 山
6月28日(火)	関東俱楽部対抗決勝	戸 塚
7月26日(火)~7月28日(木)	関東ジュニア選手権予選	ノーザン錦ヶ原
8月4日(火)~8月5日(水)	関東ジュニア選手権決勝	埼玉 竜
9月1日(木)~9月4日(日)	関東オープン選手権	江 戸 峠
9月6日(火)	関東シニア選手権予選	第1ブロック 沼 津
9月5日(月)		第2ブロック 桜ヶ丘
9月21日(火)~9月22日(水)	関東シニア選手権決勝	千葉(梅郷)
10月18日(火)	関東グランド・シニア選手権	霞ヶ関

※は予定日 (62年9月22日現在)

昭和63年度 関東ゴルフ連盟月例競技 日程表

月	開 催 日	開催コース
1	1月26日(火)	程ヶ谷
2	2月25日(木)	筑波
3	3月25日(金)	高 坂
4	4月14日(火)	大利根
6	(男子) 6月22日(火) (女子) 6月24日(金)	東京 桜ヶ丘
7	(女子) 7月11日(月) (男子) 7月15日(金)	東京国際 江戸崎

月	開 催 日	開催コース
8	(女子) 8月10日(火) (男子) 8月19日(金)	鎌ヶ谷 我孫子
9	9月26日(月)	日 高
10	10月28日(金)	茨城
11	※11月18日(金)	埼玉 蔵
12	12月6日(火)	龍ヶ崎

※は予定

月例競技成績表

(62年6月月例)

(男子)参加:98名 6月17日(水)於:東京ゴルフ倶楽部

順位	氏名	俱楽部	第1ラウンド		第2ラウンド		合計
			アウト	イン	アウト	イン	
1	小川 透	岡部チサン	35	70	35	55	140
2	和田 博	東京五日市	36	36	72	32	142
3	五十嵐唯郎	東京五日市	36	37	73	37	145
3	杉山直也	紫塚	34	38	72	35	145
3	打越 守	水戸	39	35	74	35	145

コース・レート 72.2

(注)4月例のプレー・オフは打越氏の優勝となりました。

(62年7月月例)

(男子)参加:100名 7月17日(金)於:霞ヶ関カントリー倶楽部(西)

順位	氏名	俱楽部	第1ラウンド		第2ラウンド		合計
			アウト	イン	アウト	イン	
1	内藤正幸	桜ヶ丘	37	38	75	35	144
2	小川 透	岡部チサン	36	35	71	39	147
3	増田 健	大船国際	39	38	77	35	148
3	北川裕規	日大	35	39	74	36	148
3	太田再勇	大相模	37	37	74	37	148

コース・レート 71.8

(62年8月月例)

(男子)参加:75名 8月21日(金)於:我孫子ゴルフ倶楽部

順位	氏名	俱楽部	第1ラウンド		第2ラウンド		合計
			アウト	イン	アウト	イン	
1	宮 辰夫	習志野	34	36	70	38	144
2	浅川辰彦	武藏	37	39	76	34	147
3	森 永正隆	武藏	35	36	71	38	148
4	阪田哲男	袖ヶ浦	41	35	76	38	149
4	小久保武夫	岡田	37	36	73	39	149
4	小林勝美	立川国際	37	39	76	37	149

コース・レート 72.3

お知らせ

理事長の変更

- 姉ヶ崎カントリー倶楽部 (新)大槻 文平
(旧)坂 信彌
- 相武カントリー倶楽部 (新)西村 龍介
(旧)武田 満作
- あさひヶ丘カントリークラブ (新)石橋 進一
(旧)藤松 正憲
- 蓼科高原カントリークラブ (新)瀧澤 至
(旧)瀧澤 知足

加盟倶楽部名称変更

- (新)コスモクラシッククラブ(千葉)
(旧)岩井カントリークラブ

倶楽部代表者の変更

- 姉ヶ崎カントリー倶楽部 (新)大槻 文平
(旧)坂 信彌
- 相武カントリー倶楽部 (新)西村 龍介
(旧)武田 満作
- 宇都宮カンツリークラブ (新)盛川 誠二
(旧)佐藤和三郎
- 鎌ヶ谷カントリークラブ (新)川崎 徹
(旧)川崎 武雄
- 蓼科高原カントリークラブ (新)瀧澤 至
(旧)瀧澤 知足
矢崎 照男